

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年6月23日
【事業年度】	第90期(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)
【会社名】	極東貿易株式会社
【英訳名】	Kyokuto Boeki Kaisha, Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 廣 阪 明
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町2丁目2番1号
【電話番号】	03(3244)3592
【事務連絡者氏名】	経理部長 苫米地 信 輝
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区大手町2丁目2番1号
【電話番号】	03(3244)3592
【事務連絡者氏名】	経理部長 苫米地 信 輝
【縦覧に供する場所】	極東貿易株式会社 大阪支店 (大阪市北区中之島3丁目2番4号) 極東貿易株式会社 名古屋支店 (名古屋市中村区名駅南1丁目16番30号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第86期 平成18年3月	第87期 平成19年3月	第88期 平成20年3月	第89期 平成21年3月	第90期 平成22年3月
売上高 (百万円)	98,420	94,146	77,691	71,137	46,802
経常利益又は経常損失 () (百万円)	164	1,183	1,450	629	63
当期純利益又は 当期純損失() (百万円)	382	984	339	2,867	1,202
純資産額 (百万円)	17,124	17,744	16,530	12,070	11,540
総資産額 (百万円)	37,026	36,099	40,144	34,148	28,098
1株当たり純資産額 (円)	638.67	662.11	617.04	450.67	431.06
1株当たり当期純利益 又は当期純損失() (円)	14.25	36.74	12.65	107.05	44.89
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.2	49.2	41.2	35.3	41.1
自己資本利益率 (%)	2.2	5.6	2.0	20.1	10.2
株価収益率 (倍)	-	11.3	18.1	-	-
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	737	2,024	93	2,928	2,950
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	820	203	1,364	1,210	555
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	917	157	683	1,334	80
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	1,294	2,980	2,425	5,348	2,887
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	337 (42)	325 (38)	330 (43)	328 (46)	270 (50)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第87期及び第88期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。第86期、第89期及び第90期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第86期、第89期及び第90期の株価収益率は、当期純損失を計上したため、記載しておりません。

4 従業員数は就業人員数を表示しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第86期 平成18年3月	第87期 平成19年3月	第88期 平成20年3月	第89期 平成21年3月	第90期 平成22年3月
売上高 (百万円)	93,780	89,388	73,035	66,321	44,162
経常利益又は経常損失 () (百万円)	64	661	976	426	115
当期純利益又は 当期純損失() (百万円)	813	560	44	2,965	1,296
資本金 (百万円)	5,030	5,030	5,030	5,030	5,030
発行済株式総数 (株)	27,899,592	27,899,592	27,899,592	27,899,592	27,899,592
純資産額 (百万円)	16,780	16,930	15,336	11,030	10,353
総資産額 (百万円)	36,341	34,817	38,474	32,154	26,199
1株当たり純資産額 (円)	625.84	631.71	572.48	411.84	386.72
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額) (円)	7.50 (3.75)	9.50 (3.75)	7.50 (3.75)	7.50 (3.75)	3.75 (-)
1株当たり当期純利益 又は当期純損失() (円)	30.34	20.90	1.67	110.69	48.42
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.2	48.6	39.9	34.3	39.5
自己資本利益率 (%)	4.8	3.3	0.3	22.5	12.1
株価収益率 (倍)	-	19.9	-	-	-
配当性向 (%)	-	45.5	-	-	-
従業員数 (ほか、平均臨時 雇用者数) (名)	295 (40)	253 (36)	241 (40)	229 (42)	213 (44)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第87期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。第86期、第88期、第89期及び第90期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第86期、第88期、第89期及び第90期の株価収益率及び配当性向は、当期純損失を計上したため、記載しておりません。

4 従業員数は就業人員数を表示しております。

5 第87期の1株当たり配当額9円50銭には、創立60周年記念配当2円が含まれております。

2【沿革】

- 昭和22年7月 連合軍総司令部覚書により、三井物産株式会社は解散を命ぜられたため、同社機械部門営業各課並びに貿易部門関係者を主体として昭和22年11月27日当社が設立されました。
- 昭和22年11月 極東貿易株式会社(資本金500万円、本店 東京都千代田区丸の内2丁目2番地)の商号をもって設立し、機械専門の商社として事業を開始。
- 昭和23年1月 札幌支店を設置。
- 昭和24年1月 大阪支店を設置。
- 昭和26年1月 名古屋、福岡の各支店を設置。
- 昭和31年4月 ニューヨークに、子会社として現地法人Far East Mercantile Corp.を設立。
- 昭和33年10月 フランクフルトに、子会社として現地法人Far East Mercantile GmbHを設立。
- 昭和35年11月 子会社Far East Mercantile GmbHをデュッセルドルフに移転。
- 昭和39年10月 ロンドン支店を設置。
- 昭和40年10月 本店を、東京都千代田区大手町2丁目4番地に移転。(なお、本店所在地は昭和45年1月住居表示の実施により、東京都千代田区大手町2丁目2番1号と変更。)
- 昭和45年9月 子会社として「日本システム工業株式会社」を設立し、電子機器の製造およびソフトウェア開発を開始。
- 昭和51年1月 仙台支店を設置。
- 昭和57年4月 広島支店を設置。
- 昭和59年9月 子会社のFar East Mercantile Corp.の商号を「KBK Inc」と改称。
- 昭和59年10月 子会社のFar East Mercantile GmbHの商号を「Kyokuto Boeki Kaisha (KBK) GmbH」と改称。
- 昭和62年3月 東京証券取引所市場第2部へ株式上場。
- 平成6年9月 台北支店を設置。
- 平成9年5月 上海に、子会社として現地法人極東貿易(上海)有限公司を設立。
- 平成12年3月 東京証券取引所市場第1部銘柄に指定。
- 平成15年12月 ロンドン支店を廃止し、子会社のKyokuto Boeki Kaisha (KBK) GmbHと統合の上、商号を「KBK Europe GmbH」と改称。
- 平成17年6月 子会社として「KBKフロンティア株式会社」を設立。
- 平成18年6月 子会社として「KBKオフィスワークス株式会社」を設立。
- 平成20年4月 子会社として「Kyokuto Trading(India) Private Limited」を設立。
- 平成21年4月 子会社として「KBKスチールプロダクツ株式会社」を設立。
- 平成21年4月 子会社として「3DDS名古屋有限責任事業組合」を設立。

3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社9社及び関連会社9社で構成され、電機・エネルギー関連、電子・航空関連、一般産業関連の3部門に係る事業を主に行っており、その商品は多岐にわたっております。各事業における当社及び関連会社の位置付け等は次の通りであります。

電機・エネルギー関連

当部門においては、電気機械設備、計装制御システム、石油掘削関連機器、石油・天然ガス炭鉱技術サービスなどの資源開発機器を当社が販売するほか、火力発電所向等の自動制御装置及び、同機器を関連会社ABB日本ベレー株式会社（持分法適用会社）が設計、製作しており、製品は当社を經由して販売しております。

電子・航空関連

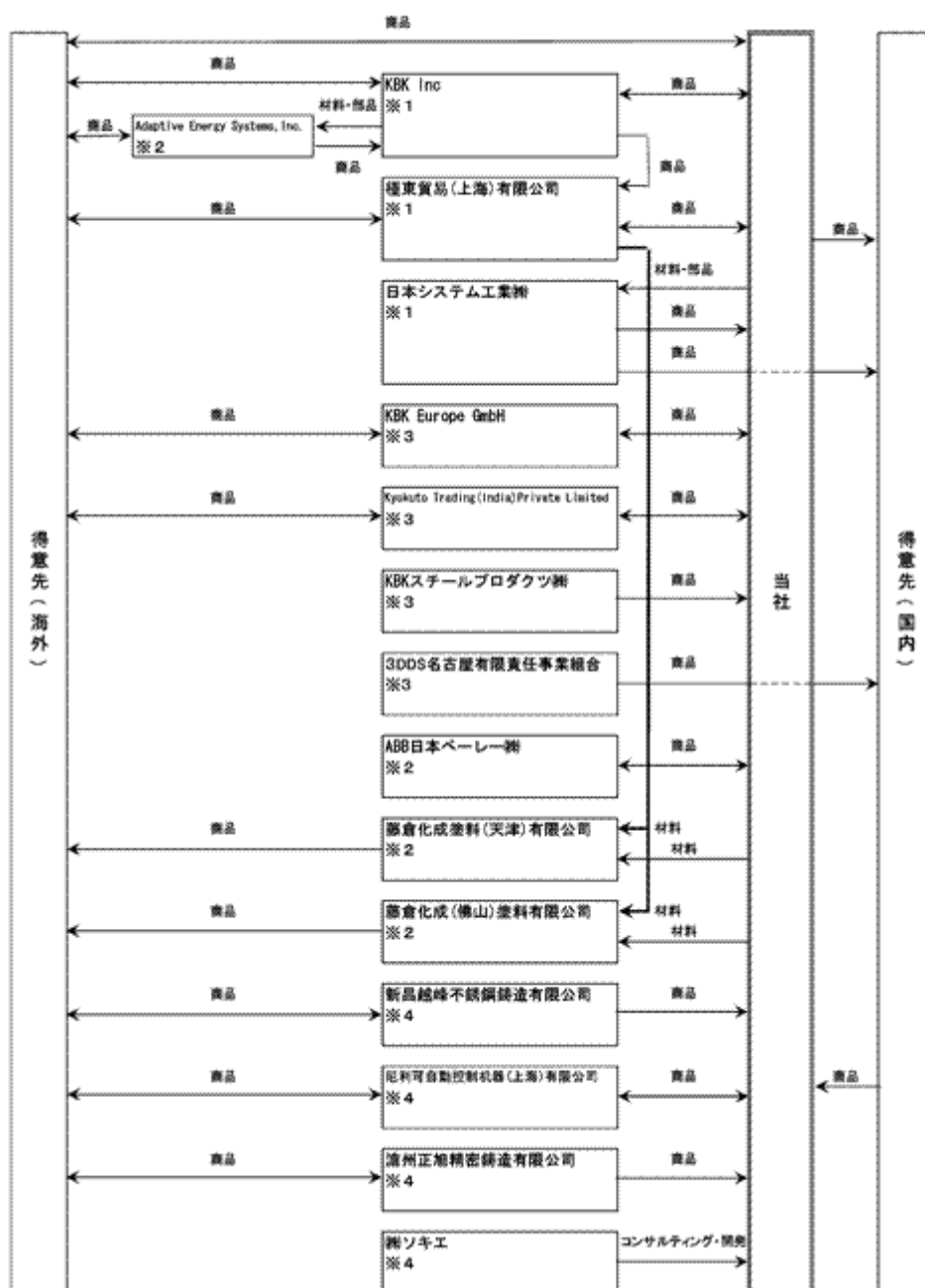
当部門においては、電子機器、電子部品及びソフトウェア、振動計、画像処理装置、航空機搭載電子機器、地上支援電子機器、航空機用機材、航法装置などを当社が販売するほか、日本システム工業株式会社（連結子会社）が、電子機器の製造及び各種ソフトウェア技術や、修理サービスの提供を行っており、主として当社より材料・部品を仕入れ、当社を經由するなどして国内取引先に販売しております。

一般産業関連

当部門においては、鉄鋼、非鉄、自動車、化学、造船、プラントエンジニアリングなどの関連機械装置、環境保全設備、複合材料製造設備、繊維加工機械、食肉加工機、樹脂加工機械、塗装設備、測定・分析装置、食品用副資材、樹脂、塗料、建設用資材、合成複合材料、鋳鍛造品、不織布製品などを当社が販売するほか、藤倉化成塗料（天津）有限公司（持分法適用会社）及び藤倉化成（佛山）塗料有限公司（持分法適用会社）は、主として当社より仕入れた材料により、中国内で塗料等の製造、販売を行っております。

なお、当社は当社グループの中核として、上記3部門の輸出入業、外国間取引及び、国内販売を行っており、当社の米国、欧州、中国、インドに対する輸出入取引の一部についてKBK Inc（連結子会社）、KBK Europe（非連結子会社）、極東貿易（上海）有限公司（連結子会社）、Kyokuto Trading(India) Private Limited（非連結子会社）の4社を經由して、それぞれの国または、地域の取引先に対し商品の仕入れ及び販売を行っており、それぞれの国または、地域において独自に商品の仕入れ及び販売を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



- 1 連結子会社
- 2 持分法適用関連会社
- 3 非連結子会社
- 4 持分法非適用関連会社
- 5 KBKオフィスワークス(株)及びKBKフロンティア(株)は清算中であり、また、上海藤倉化成塗料有限公司につきましては、事業開始に向けて準備中のため、事業の系統図には含めておりません。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
日本システム工業株式会社	東京都千代田区	50	電子・航空関連事業	100.0 ()	当社より材料・部品を仕入れ、主として当社を通して国内取引先に販売しております。 役員の兼任2名(当社従業員2名を含みます。)
K B K I n c	アメリカ合衆国 ニューヨーク州 ニューヨーク市	千US\$ 2,400	電子・航空関連事業 一般産業関連事業	100.0 ()	当社の米国に対する輸出入取引の一部について、それぞれの国又は地域の取引先に対し商品の仕入れ又は販売をしております。 当社が310百万円の債務を保証しております。 役員の兼任3名(当社従業員2名を含みます。)
極東貿易(上海)有限公司	中華人民共和国 上海市	千US\$ 200	一般産業関連事業	100.0 ()	当社の中国に対する輸出入取引の一部について、それぞれの国又は地域の取引先に対し商品の仕入れ又は販売をしております。 役員の兼任3名(当社従業員1名を含みます。)
K B K オフィスワークス株式会社	東京都千代田区	10	管理部門業務 受託事業	100.0 ()	平成21年9月30日をもって解散決議をし、現在清算中であります。
K B K フロンティア株式会社	東京都中央区	80	一般産業関連事業	100.0 ()	平成21年12月31日をもって解散決議をし、現在清算中であります。
(持分法適用関連会社)					
A B B 日本ベレー株式会社	静岡県伊豆の国市原木	192	電機・エネルギー関連事業	29.4 ()	火力発電所向け等の自動制御装置及び同機器を当社が設計・製作しており、製品は当社を經由して販売しております。 役員の兼任3名(当社従業員2名を含みます。)
藤倉化成塗料(天津)有限公司	中華人民共和国 天津市	千人民元 8,600	一般産業関連事業	30.0 ()	中国内の自動車関連メーカー向け塗料等の製造、販売を行っており、当社より材料を仕入れております。 役員の兼任2名(当社従業員1名を含みます。)
藤倉化成(佛山)塗料有限公司	中華人民共和国 佛山市	千人民元 14,000	一般産業関連事業	30.0 ()	中国内の自動車関連メーカー向け塗料等の製造、販売を行っており、当社より材料を仕入れております。 役員の兼任2名(当社従業員1名を含みます。)

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
Adaptive Energy Systems, Inc.	アメリカ合衆国 カリフォルニア州 ロサンゼルス市	千US\$ 80	電子・航空関 連事業	25.0 (25.0)	当社の100%子会社である KBK Inc の出資会社であり、 照明装置の設計、製作と米国 内の販売を行っております。 役員の兼任1名(KBK Inc に 出向している当社従業員1 名を含みます)

(注) 主要な事業の内容欄には、事業の種類別セグメントの名称を記載しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成22年3月31日現在

事業の種類別セグメントの名称	従業員数(名)
電機・エネルギー関連	59 (12)
電子・航空関連	62 (11)
一般産業関連	98 (18)
全社(共通)	51 (9)
合計	270 (50)

- (注) 1 従業員は就業人員(当グループからの当グループ外への出向者を除く)であります。
2 全社(共通)として記載されている従業員は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。
3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の当連結会計年度の平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
4 臨時従業員には、パートタイマー、嘱託契約従業員及び派遣社員を含んでおります。

(2) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

従業員数	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与
213名(44名)	42才4か月	17年9か月	7,714,848円

- (注) 1 従業員は就業人員(当社からの社外への出向者を除く)であります。
2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の当事業年度の平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
3 臨時従業員には、パートタイマー、嘱託契約従業員及び派遣社員を含んでおります。
4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

労働組合との間に特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、世界経済の未曾有の混迷を大きく受けた前年に比べ、持ち直してきてはいるものの自立性に乏しく、失業率が高水準にあり、依然として厳しい一年であったといえます。即ち、世界的な在庫調整により、輸出の牽引により多少の持ち直しはあったものの、全般的な景況は低調であり、とりわけ設備投資については民間製造業でも下げ止まりが見られず、また内需依存の高い中小企業、非製造業では収益悪化の危機感を拭えない状況が続きました。一方、世界経済は金融問題が尾を引いており、欧米経済は政策対応の遅れが景気回復の障害となっている状況です。その中で金融緩和や歳出拡大を伴う内需刺激策により、中国経済は急速な景気回復を遂げているものの、世界経済を牽引できるまでの力強さには至っていない状況であったといえましょう。

このような状況のもと、当グループは、防衛省向け輸入品価格に係わる過大請求問題の早期解決に向け、同省による調査に全面的に協力してまいりましたが、昨年12月17日付にて防衛省から地方調達を含む全ての調査が終了したとの通達を受け、平成20年1月7日より続いておりました同省との取引停止が全面的に解除されることになりました。この間、当グループは、再発防止とコンプライアンスを徹底すべく、各施策の実施に取り組んでまいりましたが、今後も引き続きコンプライアンス重視の経営を当グループの重要課題と位置づけてまいります。そうした中、当グループは「信用力の回復」と「収益力の回復」を目指し、既存商権における不採算事業からの整理・撤退、関係会社の整理等を行い、併せてグループ横断的に人件費、経費の大幅な削減に努めてまいりました。そして、既存事業の収益力の向上と、将来的なコア事業の育成に全力を挙げて取り組んでまいりました。

この結果、中国での需要が比較的堅調であった高級鋼板用鋼材溶削装置等製鉄関連機器と、火力発電所向け制御装置事業は底堅く推移したものの、国内製鉄所並びに化学プラント向けの重電設備、中国家電業界向けのコーティング材、そして航空機関連機器等が低調に推移したことにより、当グループ売上高は前連結会計年度に比べ243億34百万円減少し、468億2百万円となりました。

損益面におきましては、防衛省向けを中心とした航空機関連商材の毀損が大きく影響し、併せて中国家電業界向けのコーティング材の落ち込み等の影響から、売上総利益が前連結会計年度に比べ15億54百万円減少し49億19百万円となり、これに伴い営業利益は前連結会計年度に比べ5億33百万円減少し2億64百万円の営業損失となりました。経常利益は営業利益の落ち込みにより前連結会計年度に比べ6億92百万円減少し63百万円の経常損失となりました。また、経済環境の悪化に起因する投資有価証券の評価損失が2億95百万円発生し、防衛省向け輸入品価格に係わる違約損失金8億47百万円を新たに認識することとなり、また昨年9月に実施した早期優遇希望退職制度に係わる特別費用2億96百万円が発生したことから、当期の特別損失が総額15億66百万円となりました。その結果税金等調整前当期純損失は11億49百万円となり、法人税等を加減した結果、当期純損失は12億2百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

電機・エネルギー関連部門

火力発電所向け制御装置事業については、積極的な高利益率案件の取り込みにより堅調な売上を上げることができました。一方、国内主要企業の設備投資の手控えにより、国内製鉄所並びに化学プラント向けの重電関連事業は大きく低迷することとなりました。資源開発機器関連事業については、前年に引き続き海洋探査関連事業の大型案件が見送られました。この結果、売上高は前連結会計年度に比べ133億37百万円減少の210億20百万円となり、営業利益は前連結会計年度に比べ2億8百万円減少の59百万円となりました。

電子・航空関連部門

防衛省向け輸入品価格に係わる過大請求問題に伴う同省との取引停止による影響に関して、前連結会計年度は受注残の納入が多く発生したこと等により、比較的軽微でありましたものの、本連結会計年度の航空機関連事業の売上高は大きく毀損することとなりました。また、電子機器関連事業につきましても、業界の低迷に伴い前連結会計年度に引き続き低調な推移を余儀なくされました。この結果、売上高は前連結会計年度に比べ69億20百万円減少し68億33百万円に留まり、営業利益は前連結会計年度に比べ86百万円減少し3億86百万円の営業損失となりました。

一般産業関連部門

海外製鉄所向け高級鋼板用鋼材溶削装置が堅調に推移しましたものの、中国向け家電用コーティング材事業が景況の悪化により激減したことに伴い、売上を大きく減じることとなりました。この結果、売上高は前連結会計年度に比べ40億77百万円減少の189億48百万円となり、営業利益は前連結会計年度に比べ2億17百万円減少の68百万円となりました。

所在地別セグメントの業績は次の通りであります。

日本

国内市場全般について景況低迷の影響を受けて低調に推移しました。とりわけ重電関連事業、資源開発機器関連事業などの分野での落ち込みが影響し、売上高は前連結会計年度に比べ221億31百万円減少の437億83百万円となり、営業利益は前連結会計年度に比べ3億62百万円減少し3億12百万円の営業損失となりました。

北米

航空機関連事業等が大幅に毀損した結果、売上高は前連結会計年度に比べ10億93百万円減少し16億5百万円となり、営業利益は前連結会計年度に比べ52百万円改善したものの、86百万円の営業損失となりました。

東南アジア

中国向け家電用コーティング材事業が景況の悪化により激減したことに伴い、売上高は前連結会計年度に比べ11億10百万円減少し14億12百万円となり、営業利益は前連結会計年度に比べ1億74百万円減少し1億43百万円となりました。

(2) キャッシュフロー

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ、24億60百万円減少し、28億87百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度末に比べ58億78百万円減少し、29億50百万円の支出となりました。これは、仕入債務及び違約損失引当金の減少などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度末に比べ17億66百万円増加し、5億55百万円の収入となりました。これは、保有していた債券の償還などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度において財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度末に比べ14億14百万円減少し、80百万円の支出となりました。これは、長期借入による収入がありましたものの、社債の償還による支出などによるものであります。

2【売約及び売上等の状況】

(1) 売約及び売上等の状況

(イ)業態別

区分	前連結会計年度 (平成20.4.1～平成21.3.31)			当連結会計年度 (平成21.4.1～平成22.3.31)			
	期首 売約残高 (百万円)	売約高 (百万円)	売上高 (百万円)	期首 売約残高 (百万円)	売約高 (百万円)	売上高 (百万円)	期末 売約残高 (百万円)
輸出取引	814	4,977	5,594	196	3,404	3,272	328
比率(%)			7.9			7.0	
輸入取引	6,053	11,238	14,544	2,746	6,646	7,247	2,145
比率(%)			20.4			15.5	
外国間取引	2,171	13,135	12,063	3,243	5,579	7,998	824
比率(%)			17.0			17.1	
国内取引	15,666	40,192	38,933	16,925	26,482	28,283	15,124
比率(%)			54.7			60.4	
合計	24,705	69,543	71,137	23,112	42,112	46,802	18,422
比率(%)			100.0			100.0	

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(ロ)商品別

区分	前連結会計年度 (平成20.4.1～平成21.3.31)			当連結会計年度 (平成21.4.1～平成22.3.31)			
	期首 売約残高 (百万円)	売約高 (百万円)	売上高 (百万円)	期首 売約残高 (百万円)	売約高 (百万円)	売上高 (百万円)	期末 売約残高 (百万円)
電機・エネルギー 関連	17,023	34,017	34,357	16,682	20,039	21,020	15,702
比率(%)			48.3			44.9	
電子・航空関連	4,478	10,300	13,753	1,026	6,378	6,833	571
比率(%)			19.3			14.6	
一般産業関連	3,203	25,225	23,026	5,403	15,694	18,948	2,148
比率(%)			32.4			40.5	
合計	24,705	69,543	71,137	23,112	42,112	46,802	18,422
比率(%)			100.0			100.0	

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 仕入の状況
(イ)業態別

区分	前連結会計年度 (平成20.4.1～平成21.3.31)		当連結会計年度 (平成21.4.1～平成22.3.31)	
	仕入高(百万円)	比率(%)	仕入高(百万円)	比率(%)
輸出取引	5,933	9.1	2,979	7.0
輸入取引	10,968	16.8	5,788	13.7
外国間取引	11,806	18.0	7,513	17.7
国内取引	36,748	56.1	26,081	61.6
合計	65,458	100.0	42,362	100.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(ロ)商品別

区分	前連結会計年度 (平成20.4.1～平成21.3.31)		当連結会計年度 (平成21.4.1～平成22.3.31)	
	仕入高(百万円)		仕入高(百万円)	
電機・エネルギー関連	32,516		19,402	
電子・航空関連	12,892		6,727	
一般産業関連	20,048		16,232	
合計	65,458		42,362	

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

今後の当グループを取り巻く経済環境を俯瞰いたしますと、世界経済はこれまで取り組んできた景気対策の効果により、弱含みながら年央までは拡大傾向が持続すると見られますが、ギリシャのソブリンリスクに端を発したユーロ通貨危機、国際金融などの今後の動向が注目されます。また、わが国経済は、中国向けを中心に輸出は増加傾向を辿るものと見られますが、設備投資や雇用環境の不安定さは依然払拭されず、内需の回復に大きな期待が出来ない状況が続くものと思われ、今後の景気動向に一層注視せざるを得ません。

当グループは、残念ながら2期連続して最終損失を計上する結果となりました。そうした中、当グループは、「信用力の回復」と「収益力の回復」を経営の最重要課題と位置づけ、真摯に多くの改善施策の実行に取り組んでまいりました。「信用力の回復」に関しては、コンプライアンス態勢の整備と当グループ全員のコンプライアンス意識の向上に努めてまいりました。「収益力の回復」に関しては、「選択と集中」の考えを従来にも増して推進し、収益構造の全面的な見直しを行い、併せてグループ戦略、グローバル戦略の基盤の拡充に努めてまいりました。そしてコスト構造の抜本的な改革を断行いたしました。そうした中、昨年12月に防衛省との取引停止解除の発表を受け、まさしく平成22年度を「当グループの再生元年」と位置づけ、これまで以上に大きな変革に挑戦してまいります。また本年度は「復活」から「飛躍に向けた3年間の助走路」と位置づける当グループの中期経営計画「KBK Approach to the future」の初年度にあたり、堅実且つ強力に目標達成に向け進み、中長期的な成長基盤の構築を図っていく所存です。

経営管理の面では、コーポレートガバナンスの理念のもと、取締役会と監査役会の一層の機能向上を図っていくとともに、現在当グループとして内部統制システムの整備に粛々と取り組んでおります。そして、適確且つ適正な情報開示を重要な課題と位置づけ、株主、投資家の皆様に対し、当グループの経営理念、戦略等の情報を適時に開示してまいります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

1．マクロ経済環境の影響によるリスク

当社グループはグローバルにビジネスを展開し、売上高の約4割を輸出入取引と外国間取引で占められており、取扱製品、取扱サービスの販売先国、仕入先国または各地域の経済状況、景気動向および各国市場の影響を受けます。輸出入取引においては特に米国との比重が高く、米国市場における景気後退や経済の動向は当社グループの業績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

2．為替リスク

当社グループが行う輸出入取引及び外国間取引において外貨建決済を行うことに伴い、外貨レート変動のリスクがあります。これらの取引に対し為替予約によるヘッジを行っておりますが全てが回避される保証はありません。この他、当社グループの海外企業との取引により発生する販売仕入、費用、資産を含む当該外貨建ての項目は円換算されており、換算時の為替レートによりこれらの項目の円換算後の価値が影響を受ける可能性があります。

3．製品に関するリスク

当社グループが製品を輸入し国内で販売する場合には当社グループが製造物責任（PL）の責任主体とされるほか、輸出する製品についても輸出先において製品の欠陥に基づく賠償を請求される可能性があります。PL保険によりリスクヘッジを講じておりますが、最終的に負担する賠償額を全てカバーできる保証はなく、欠陥によっては賠償額が多額となることも考えられ、当社グループの業績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

4．投資に関するリスク

当社グループは、第三者との合併事業、第三者に対する投資を通じて多様な事業分野に参入しております。しかしながら、これらの事業の進展は、当該事業のパートナーの業績や財政状態といった当社グループが制御しえない要因による場合があります。その結果、当社グループが重大な損失を被る可能性があり、当社グループの業績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

5．カントリーリスク

海外との取引、投資、資本・業務提携等の海外市場への事業進出には、各国および各地域の環境、経済情勢、諸事情により、法律や規制の変更、政治不安定、不利な税制や経済要因、テロ、戦争その他の社会的混乱等に起因したリスクが想定されます。

また、当社グループが事業活動を展開している各国における政治、法環境、税制の変化、労働力の確保、経済状況の変化など予期せぬ事象により、代金回収、事業の遂行等に問題が生じるおそれがあります。

6．役職員の確保に関するリスク

当社グループの事業活動において、エンジニアリングや先端技術の発掘には役職員各人の能力に基づく部分も多く、優れた人材の確保または育成は必須の要素となります。優秀な人材の確保が出来なかった場合には、当社グループの業績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

7．法的規制に関するリスク

当社グループは事業展開する国内外において様々な法律の適用を受けるほか、事業・投資の許認可、国家安全保障またはその他の理由による輸出制限、関税をはじめとするその他の輸出入規制等、様々な規制の適用を受けます。これらの法規制遵守のための費用負担が増加する可能性があるほか、これらの法規制を遵守出来なかった場合には、罰則・罰金が科せられるとともに、当社グループの事業活動が制限され信用の低下を招き、当社グループの業績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

8．退職給付費用および債務に関するリスク

当社グループの従業員退職給付費用および債務は、割引率等数理計算上で設定される前提条件や年金資産の期待収益率に基づいて算出されております。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、一般的には、将来の費用および計上される債務に影響を及ぼします。近年の割引率の低下および年金資産運用での損失により当社グループの年金費用は増加してきておりますが、一層の割引率の低下や運用利回りの悪化は、当社グループの業績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当グループの当連結会計年度における研究開発活動は、電子・航空関連事業において、送電線故障点標定装置の新型量産品開発を目的として外部委託先に開発委託をしております。

当連結会計年度における研究開発費は7百万円であります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 財政状態の分析

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されています。

当社グループでは、この連結財務諸表の作成に際し、当社経営陣は決算日における資産・負債の数値及び偶発資産・負債の開示、並びに決算期間における収益・費用の発表数値に影響を与える見積りを行っており、収益の認識・投資・貸倒債権・棚卸資産・法人税等・外国為替・退職金・訴訟等に関する見積及び判断に対して継続的に評価を行っております。実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

当連結会計年度末の総資産につきましては、売上債権及び現金及び預金が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ60億49百万円減少し280億98百万円となりました。負債につきましては、仕入債務及び違約損失引当金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ55億19百万円減少し、165億58百万円となりました。純資産につきましては、その他有価証券評価差額金が増加したものの、利益剰余金が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ5億29百万円減少し、115億40百万円となりました。

当グループの資金状況は、営業活動によるキャッシュ・フローでは、仕入債務及び違約損失引当金の減少などにより29億50百万円の支出となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、保有していた債券の償還などにより5億55百万円の収入となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入による収入がありましたものの、社債の償還などにより80百万円の支出となりました。この結果、当グループの当連結会計年度末におけるの現金及び現金同等物期末残高は、前連結会計年度末に比べ、24億60百万円減少し、28億87百万円となりました。

(2) 経営成績の分析

売上高・売上総利益の状況

当連結会計年度の売上高につきましては、中国での需要が比較的堅調であった高級鋼板用鋼材溶削装置等鉄鋼関連機器と、火力発電所向け制御装置事業は底堅く推移したものの、国内製鉄所並びに化学プラント向けの重電設備、中国家電業界向けのコーティング材、そして航空機関連機器等が低調に推移したことにより、当グループの売上高は前連結会計年度に比べ34.2%減少し468億2百万円となりました。

営業利益の状況

当連結会計年度において当グループは、不採算事業からの整理・撤退、関係会社の整理、併せてグループ横断的な人件費、経費の大幅な削減に努めてまいりました。販売費及び一般管理費につきましては、前連結会計年度に比べ16.5%減少し51億84百万円となりました。しかしながら、売上総利益の大幅な落ち込みにより営業利益は2億64百万円の営業損失となりました。

経常利益の状況

営業外損益につきましては、前連結会計年度に比べ為替差損等の営業外費用が抑えられましたものの、営業外収益も減少した結果、前連結会計年度3億60百万円の利益から、当連結会計年度は2億1百万円の利益となりました。この結果、経常利益は63百万円の経常損失となりました。

当期純利益の状況

特別損益につきましては、前連結会計年度に比べ経済環境の悪化に起因する投資有価証券の評価損失が2億95百万円発生し、防衛省向け輸入品価格に係わる違約損失金8億47百万円を新たに認識することとなり、また昨年9月に実施した早期優遇希望退職制度に係わる特別費用2億96百万円等が発生したことから、当期の特別損失が総額15億66百万円となりました。

この結果、当連結会計年度の当期純利益につきましては、税金等調整前当期純損失は11億49百万円となり、法人税等を加減した結果、当期純損失は12億2百万円となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当期中に特記すべき設備投資並びに重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社の状況

平成22年3月31日現在

事業所名 (主な所在地)	事業の種類別 セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	備品	土地 (面積㎡)	リース資産		合計
本店 (東京都 千代田区)	会社統括業務 他	統括業務 施設他	36	4	124	- (-)	12	177	176
社宅・寮 (埼玉県 さいたま市 大宮区他)	会社統括業務 他	福利厚生 施設他	185	-	1	150 (2,484.12)	-	336	-

(2) 国内子会社の状況

平成22年3月31日現在

会社名	事業所名 (主な 所在地)	事業の種 類別セグ メントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	備品	土地 (面積㎡)	リース資産		合計
日本システ ム工業(株)	朝霞 営業所 (埼玉県 朝霞市)	電子・航 空関連事 業	電子・航 空関連施 設	0	2	1	- (-)	-	4	22

(3) 在外子会社の状況

平成22年3月31日現在

会社名	事業所名 (主な 所在地)	事業の種 類別セグ メントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	備品	土地 (面積㎡)	リース資産		合計
KBK Inc	本店 (New York)	電子・航 空関連事 業	電子・航 空関連施 設	-	-	1	- (-)	-	1	8
極東貿易 (上海) 有限公司	中国 上海	一般産業 関連事業	一般産業 関連施設	-	3	4	- (-)	-	7	27

(注) 1 従業員数には提出会社からの出向社員を含んでおります。

2 上記のほか、主要な賃借及びリース設備としてコンピュータ関連機器他(年間リース料3百万円)があります。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成22年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年6月23日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	27,899,592	27,899,592	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	27,899,592	27,899,592		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

平成22年2月1日以後に開始する事業年度に係る有価証券報告書から適用されるため、記載事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成11年4月1日～ 平成12年3月31日	1,118,253	27,899,592	451	5,030	451	4,630

(注) 転換社債の転換による増加

(6)【所有者別状況】

平成22年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							計	単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		
					個人以外	個人			
株主数 (人)		29	29	71	28	2	3,259	3,418	
所有株式数 (単元)		6,032	449	5,817	935	8	14,371	27,612	287,592
所有株式数 の割合(%)		21.84	1.62	21.07	3.39	0.03	52.05	100.00	

(注) 1 自己株式1,127,125株は「個人その他」に1,127単元及び「単元未満株式の状況」に125株を含めて記載しております。なお、期末日現在の実質的な所有株式数は1,127,125株であります。

s 2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1単元含まれております。

(7)【大株主の状況】

平成22年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する所 有株式数の割合(%)
株式会社 I H I	東京都江東区豊洲3丁目1-1号	1,927	6.91%
株式会社三菱東京UFJ銀行	同 千代田区丸の内2丁目7番1号	1,002	3.59%
株式会社三井住友銀行	同 千代田区有楽町1丁目1番2号	987	3.54%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	同 中央区晴海1丁目8-11	976	3.50%
三井住友海上火災保険株式会社	同 中央区新川2丁目27-2	914	3.28%
株式会社ニレコ	同 八王子市石川町2951番地4	757	2.71%
極東貿易取引先持株会	同 千代田区大手町2丁目2-1	504	1.81%
シービーエヌワイデイエフエイインターナショナルキャップバリューポートフォリオ (常任代理人: シティバンク銀行株式会社)	1299 OCEAN AVENUE, 11F, SANTA MONICA, CA 90401 USA (東京都品川区東品川2丁目3番14号)	499	1.79%
東芝三菱電機産業システム株式会社	東京都港区三田3丁目13-16	484	1.73%
藤倉化成株式会社	同 板橋区蓮根3丁目20-7	479	1.72%
計	-	8,532	30.58%

(注) 1 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 437千株

2 当社は、自己株式1,127千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合4.04%)を保有しておりますが、上記大株主から除いております。

3 当連結会計年度において、株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ及びその共同保有者である株式会社三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行株式会社並びに三菱UFJ投信株式会社から、平成21年11月2日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成21年10月26日現在でそれぞれ以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として当連結会計年度末の実質所有株式数が確認できませんので、上記大株主の状況には含んでおりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
株式会社 三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	株式 1,002,574	3.59
三菱UFJ信託銀行 株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	株式 339,000	1.22
三菱UFJ投信 株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	株式 55,000	0.20

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,127,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,485,000	26,485	
単元未満株式	普通株式 287,592		
発行済株式総数	27,899,592		
総株主の議決権		26,485	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式125株が含まれております。

【自己株式等】

平成22年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 極東貿易株式会社	東京都千代田区大手町 2 - 2 - 1	1,127,000		1,127,000	4.04
計		1,127,000		1,127,000	4.04

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	10,510	1,463,509
当期間における取得自己株式	2,899	473,072

(注) 当期間における取得自己株式には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数	1,127,125	-	1,130,024	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成22年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡しによる株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は、株主重視を経営上の基本方針の一つとして位置づけ、継続的な安定成長につながる戦略投資へのファンドの確保を旨としております。利益配分につきましては、安定配当の継続を基本方針としつつ、当期及び来期以降の業績を勘案し、業績に応じて株主に還元することが出来るよう努力していくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これら剰余金の配当決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

上記方針に基づき当期は1株当たり3円75銭の普通配当を実施することを決定致しました。

内部留保資金につきましては、企業体質の強化並びに営業活動推進のための運転資金として有効に活用し、株主資本利益率の向上に努力する所存であります。

当社は「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として、中間配当をすることが出来る」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成22年6月23日 定時株主総会決議	100	3.75

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第86期	第87期	第88期	第89期	第90期
決算年月	平成18年3月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月
最高(円)	532	464	442	250	169
最低(円)	312	329	213	110	101

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成21年 10月	11月	12月	平成22年 1月	2月	3月
最高(円)	136	126	120	135	126	164
最低(円)	118	101	103	116	114	120

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		荒木 信 哉	昭和14年4月7日生	昭和39年4月 当社入社 平成5年1月 産業機械部長 平成8年4月 理事プラスチック部長兼新素材部長 平成9年6月 取締役就任 営業部門担当 平成13年6月 常務取締役就任 平成16年6月 専務取締役就任営業部門管掌 平成17年6月 代表取締役社長就任 平成21年6月 代表取締役会長就任(現)	(注)4	82
代表取締役 社長		廣 阪 明	昭和22年12月2日生	昭和46年3月 当社入社 平成14年2月 プラスチック部長 平成16年4月 理事プラスチック部長 平成17年6月 執行役員メディア・素材グループ長 平成18年4月 執行役員メディア・素材グループ長 平成19年6月 取締役就任 営業部門担当 平成21年6月 代表取締役社長就任(現)	(注)4	26
取締役		武 井 俊 文	昭和5年9月27日生	昭和28年4月 石川島播磨重工業株式会社(現株式会社IHI)入社 昭和60年6月 同社取締役営業本部副本部長 昭和61年6月 同社取締役営業本部長 平成元年6月 同社常務取締役営業本部長 平成3年7月 同社常務取締役営業総括本部長 平成5年6月 同社専務取締役営業総括本部長 平成6年6月 同社代表取締役副社長 平成7年6月 同社代表取締役社長 平成13年6月 同社相談役 平成19年6月 当社取締役就任(現)	(注)4	-
取締役	営業部門担当	木 村 滋 利	昭和22年5月7日生	昭和47年4月 当社入社 平成9年5月 極東貿易(上海)有限公司総経理 平成14年11月 上海駐在員事務所長兼北京連絡員事務所長 平成16年4月 理事上海駐在員事務所長兼北京連絡員事務所長 平成17年6月 執行役員中国グループ長上海駐在員事務所長兼北京連絡員事務所長 平成19年6月 取締役就任 営業部門担当(現) 平成21年7月 極東貿易(上海)有限公司董事長(現)	(注)4	32
取締役	営業部門担当	久 世 了	昭和24年5月27日生	昭和48年4月 当社入社 平成12年7月 KBKInc 総支配人 平成16年4月 理事KBKInc 総支配人 平成17年6月 執行役員米州・欧州グループ長 平成18年6月 執行役員米州・欧州・計装グループ長 平成19年6月 日本ベーレー株式会社(現ABB日本ベーレー株式会社)代表取締役就任(現) 平成19年6月 取締役就任 営業部門担当(現)	(注)4	27
取締役	管理部門担当	雨 宮 皓	昭和21年8月2日生	昭和59年5月 当社入社 平成10年4月 総務部長 平成14年7月 理事総務部長 平成17年6月 執行役員管理グループ長 平成19年6月 上席執行役員管理グループ長 平成21年6月 取締役就任 管理部門担当(現)	(注)4	9

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)	
取締役	営業部門担当	三戸 純一	昭和25年12月3日生	昭和49年4月 平成14年4月 平成17年6月 平成18年4月 平成19年6月 平成21年6月	当社入社 新素材部長 理事新素材部長 理事新素材部長兼医療・生活機 材販売室長 執行役員素材グループ長メディ カル・メディアシステム部長 取締役就任 営業部門担当(現)	(注)4	7	
常勤監査役		奥山 茂	昭和21年4月23日生	昭和45年3月 平成13年6月 平成15年4月 平成16年6月	当社入社 経理部長 営業管理部参事 常勤監査役就任(現)	(注)5	21	
常勤監査役		宮口 秀人	昭和24年12月28日生	昭和49年4月 平成11年2月 平成12年10月 平成13年2月 平成15年4月 平成16年6月	株式会社東京銀行(現株式会社 三菱東京UFJ銀行)入行 株式会社東京三菱銀行(現株式 会社三菱東京UFJ銀行)品川駅前 支店長 株式会社東京三菱銀行新丸の内 支店長 株式会社東京三菱銀行新丸の内 支社長 当社常勤顧問 常勤監査役就任(現)	(注)5	18	
監査役		藤田 耕三	昭和7年1月11日生	平成元年11月 平成3年5月 平成5年3月 平成7年11月 平成9年3月 平成9年6月 平成10年6月 平成13年12月 平成19年6月	千葉地方裁判所長 東京地方裁判所長 仙台高等裁判所長官 広島高等裁判所長官 弁護士登録(現) 公安審査委員会委員長 当社監査役就任(現) 東京都地方労働委員会会長 協和発酵工業株式会社(現協和 発酵キリン株式会社)取締役 (現)	(注)5	-	
監査役		田辺 信彦	昭和22年2月2日生	昭和47年3月 昭和53年6月 平成8年4月 平成15年4月 平成17年5月 平成17年6月 平成19年6月 平成21年5月	弁護士登録(現) 田辺総合法律事務所開設(現) 第一東京弁護士会副会長 日本弁護士連合会常務理事 東京都弁護士協同組合専務理事 当社監査役就任(現) 株式会社北洋銀行監査役(現) 全国弁護士協同組合連合会専務 理事(現)および東京都弁護士 協同組合副理事長(現)	(注)6	-	
計								222

- (注) 1 取締役武井俊文は、会社法第2条第15号に定める「社外取締役」であります。
- 2 監査役藤田耕三、田辺信彦は、会社法第2条第16号に定める「社外監査役」であります。
- 3 当社では、取締役会の一層の活性化を促し、取締役会の意思決定・業務執行の監督機能と各グループの業務執行機能を明確に区分し、経営効率の向上を図るために執行役員制度を導入しております。
 執行役員は4名で、執行役員 吉川忠志、執行役員 齋藤壽士、執行役員 佐藤匡玄、執行役員 松井秀一です。
- 4 平成21年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から2年間
- 5 平成20年6月18日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
- 6 平成21年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

(1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、株主、投資家の皆様をはじめ、全てのステークホルダーの皆様からの信頼をより高め、企業価値の向上を常に目指す経営に取り組んでおります。法律を遵守し経営の健全性を高め、公平で透明性の高い企業活動を進めることが、企業の社会的責任を全うし、企業の社会的信頼を高めることであると認識しております。それ故、コーポレート・ガバナンスの確立を経営上の重要課題と位置づけ、取締役会及び監査役会の機能向上をはじめ、リスク管理体制の強化、コンプライアンス意識の向上、そしてIR機能の充実等に努めております。

(2) コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

コーポレート・ガバナンス体制

当社は、規模や業態等の実質面から、現行の取締役会・監査役会の設置によるコーポレート・ガバナンス体制が、当社にとって適切かつ合理的であると判断しており、「委員会設置会社」には移行しておりませんが、会社法等による監視監督機能強化の方向性を念頭に、執行役員制度導入やガバナンス委員会をはじめとする各種機能委員会の運用強化を通じて、実質的にそうした監視監督機能と同等の機能を実現できるよう、また、社外取締役には経営戦略会議やガバナンス委員会への参画をお願いするなどして、より客観性や透明性を高める仕組みとなるよう努めております。

なお、平成18年5月12日開催の取締役会において、会社法等に基づく「内部統制システム」構築に関する基本方針について決定し、平成18年5月15日付で東京証券取引所に開示しております。現在のところ、軽微な役職名称等の訂正を除き当該決定内容に変更はありません。

今後も引き続き、社会の要求する現代的なコーポレート・ガバナンスの考え方を積極導入し、内部統制システム等も適切に見直すなどして、より適正かつ効率的な体制を実現することといたします。

「取締役会」及び執行役員制度

当社は、迅速且つ合理的な意思決定を行うため、定款で取締役を10名以内と定めるとともに、執行役員制度を導入しております。平成22年6月23日現在、「取締役会」は、7名の取締役に構成され、うち1名を社外取締役としております。社外取締役との間では、平成21年6月24日開催の当社定時株主総会開催後、「社外取締役の責任限定契約」を締結しております。

社外取締役については、株式会社IHIの社長やその他各種団体の要職を歴任され、経済社会で活躍の経験も長く見識も高いことから、経営判断を含め、大所高所からの意見、独立した見地・視点からの客観的な意見を頂きたいとの当社の考えに基づき選任しており、出席取締役会等においてそうした意見具申を頂いております。

また、当社では、取締役と執行役員の兼務は行わず、「取締役会」及び各取締役を経営意思決定及び業務執行監督を行う機関として位置づけ、当社規程に基づき、業務執行を担う執行役員及び各役職者に対し、業務執行上必要な権限を適切に委譲して、機動的かつ効率的な業務の遂行・管理が行えるよう配慮しております。

「経営戦略会議」

「経営戦略会議」は、当社規程に基づき平成15年10月に設置された会議体で、「取締役会」での審議に先立ち、経営目標・戦略、会社事業全般に関する重要事項等経営全般に関する重要事項を討議検討することとしておりましたが、代表取締役以下常勤取締役全員を構成員とする代表取締役社長直轄の経営戦略に関する諮問機関に変更しました。

「ガバナンス委員会」

当社では、経営の監視監督機能強化を目的の1つとする会社法の施行を好機と捉え、平成18年5月、代表取締役社長直轄の「ガバナンス委員会」を設置しました。ガバナンス委員会は、コーポレート・ガバナンスにかかる諸施策の企画等を行うほか、当社に既設の「輸出管理委員会」、「投融资委員会」、「企業倫理・コンプライアンス委員会」等の各種機能委員会の運営監理等を行うこととしております。

「監査役会」

当社は、監査役会設置会社であり、監査役会は監査役4名で構成し、その内2名は社外監査役であり、社外監査役2名と社内監査役2名により、取締役の職務に対する監査機能を実現しております。

常勤監査役奥山茂氏は、当社において30年間以上経理・財務業務を担当しており、また常勤監査役宮口秀人氏は、東京銀行及び東京三菱銀行（現三菱東京UFJ銀行）における永年の在籍期間中に支店長・支社長を歴任し、それぞれ財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

社外監査役については、法令上の要求によるほか、客観的な視点から意見・監査を受けることは有益であるとの当社の考えに基づき選任しており、社外監査役藤田耕三氏からは元裁判官としての幅広い識見や弁護士としての立場から、社外監査役田辺信彦氏からは法曹界での長期にわたる経験や弁護士としての立場から、そうした意見具申を頂いております。社外監査役との間では「社外監査役との責任限定契約」を締結しております。

監査役は、取締役会はもちろん、その他重要な会議に出席し取締役の職務執行を常時監督する体制を取っているほか、内部統制委員会等の各種会議体の審議状況の確認や、監査室、経理部等からの情報収集等を通じて、当社のコーポレート・ガバナンス体制やリスク管理システムが適法かつ適正に機能しているか否か等、当社の経営監査等を行っております。また、会計監査人とも適宜意見交換を行っております。

業務監査

当社は、内部監査部門として代表取締役社長直属の組織として「監査室」を設置しております。「監査室」には4名を配置し、監査計画に基づき業務の適法性や適正性等について定期的に監査を実施し、その結果を代表取締役社長に報告することはもちろん、「監査役」にも同様に報告を行っております。

業務を執行した公認会計士の氏名、所属監査法人等

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人名
指定社員・業務執行社員 牧野隆一	あずさ監査法人
指定社員・業務執行社員 亀谷憲明	あずさ監査法人

（注）監査業務に係わる補助者は下記による公認会計士及び会計士補を構成員として、監査法人が決定しております。

公認会計士 5名
 会計士補等 3名
 その他 1名

コンプライアンス

経済のグローバル化、情報化、顧客意識の変化に伴い、国際的に「企業の社会的責任」の認識が高まっているのを受けて、当社グループの持続的発展を念頭に、社会や環境との相互関係の中で社会・ステークホルダーの信頼を得るべく、以下の活動を推進中です。

規範の導入

- ・極東貿易グループ行動憲章（平成17年5月導入の「企業行動基準」を平成18年10月グループ行動憲章に変更）
- ・極東貿易グループ役員行動基準（平成17年5月導入の「役員行動規範」を平成20年9月に変更）
- ・個人情報取扱規程（平成17年4月導入）
- ・情報管理方針（平成17年7月導入）
- ・情報セキュリティ管理規程（平成20年4月導入）
- ・環境管理方針（平成17年7月導入）
- ・グリーン購入に関するガイドライン（平成17年10月導入）

周知・徹底

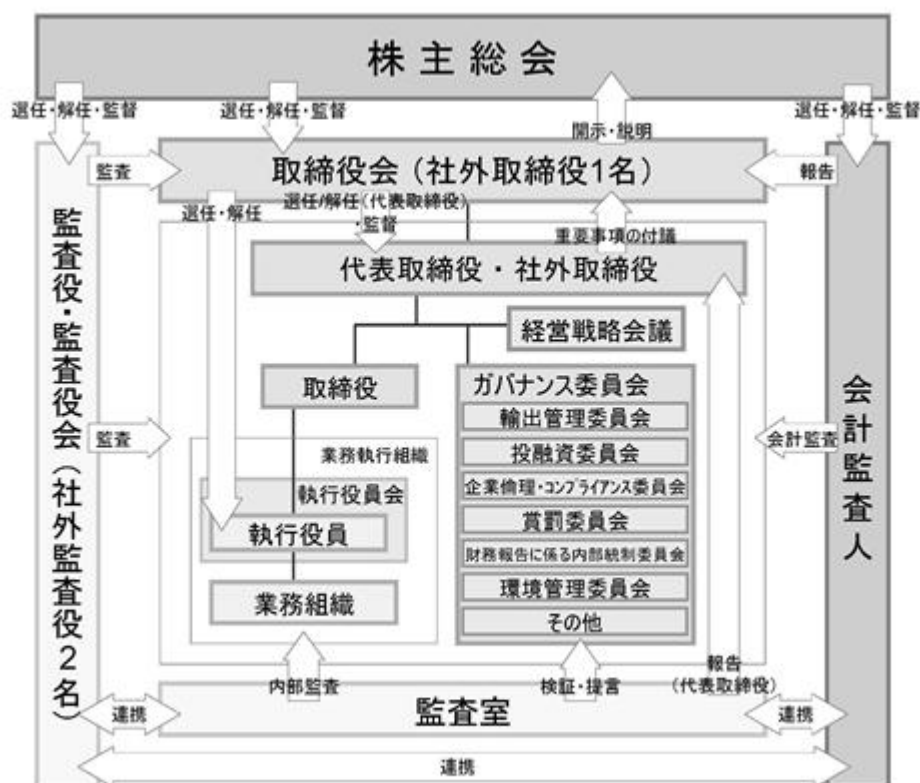
上記各規範を社内に公表する一方、繰り返し周知して、全従業員が経営方針を理解し、法の遵守と企業倫理に基づいた行動を取るよう、グループ内の倫理環境の整備、周知徹底と企業文化としての定着を推進いたします。

社内体制

当社では、経営理念の1つである法令遵守をより徹底し、コンプライアンス推進を強化するため、当社に代表取締役社長直属の機関である「企業倫理・コンプライアンス委員会」を設置しております。同委員会では、独立性を高めるため社外の弁護士に委員長を委嘱しており、定期的に会を開催してコンプライアンスに関連する諸施策の検討等を行っております。また、同委員会には、企業倫理やコンプライアンス違反事案の通報・報告窓口として「ヘルプライン」を設置しており、外部の窓口には弁護士事務所を指定しております。通報・報告事案で調査等が必要な場合は、委員である弁護士、あるいは外部窓口の弁護士事務所からの指導・助言を受けて、公正中立かつ適正に対処することとしております。

また、当社では、組織・役職の責任と権限の明確化、権限の委譲についての枠組みを設定し、「審査部門」や「投融資委員会」等による審査、及び「監査室」による事後チェック体制も充実させており、法令違反等が生じた場合は、諸規程等に基づき、「賞罰委員会」に諮るなどしたうえで、適正かつ厳正な処分を行うこととしております。

なお、当社のコーポレート・ガバナンス体制の模式図は次の通りです。



取締役数

当社の取締役は、10名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主の出席を要し、累積投票によらない旨を定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議できる事項及びその理由

1. 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、機動的な資本政策の実施を可能とすることを目的とするものであります。

2. 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。これは、職務の遂行にあたって期待される役割を十分に発揮できるようにするためであります。

3. 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、剰余金の配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元の実施を可能とすることを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席する株主総会においてその議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(3) 役員報酬等

当社の役員報酬等は次のとおりであります。なお、役員報酬等の決定に関する方針は定めておりません。

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)			対象となる役員 の員数(人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	238	121	-	116	9
監査役 (社外監査役を除く)	36	36	-	-	2
社外役員	15	15	-	-	3

(4) 社外取締役および社外監査役との関係

当社取締役7名のうち社外取締役が1名、当社監査役4名のうち社外監査役が2名就任しております。

有価証券報告書提出日現在、社外取締役である武井俊文氏が相談役を務める株式会社IHIは当社の発行済株式総数の6.91%を所有する株主であります。

その他、当社と社外取締役および社外監査役との間には人的関係、資本的关系、取引関係、その他利害関係はありません。

また、当社は、社外監査役藤田耕三氏、社外監査役田辺伸彦氏または両氏の所属する田辺総合法律事務所との間に顧問契約その他利害関係はありません。また、藤田氏が社外取締役を兼職される協和発酵キリン株式会社や、田辺氏が社外監査役を兼職される株式会社北洋銀行との間にも特別な関係はありません。

(5) 社外取締役および社外監査役との間で締結した責任限定契約の内容の概要

社外取締役および社外監査役は、当社と、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、金6百万円または会社法第425条第1項に定める最低責任限度額のいずれか高い額としております。

(6) 株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
3 銘柄 11億45百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表上額及び保有目的

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
藤倉化成株	584,000	294	藤倉化成(株)は自動車関連事業向けのコーティング材等の仕入先であり、同社とは中国において合弁事業を立ち上げるなど、国内外において協業体制を取っております。
株ニレコ	469,590	289	(株)ニレコは鉄鋼関連事業の仕入先であり、同社とは中国において合弁事業を立ち上げるなど、国内外において協業体制を取っております。

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)			
	貸借対照表計上 額の合計額	貸借対照表計上 額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	-	336	7	201	(注) 1 (60)
上記以外の株式	-	3,982	61	186	837 (140)

(注) 1．非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「評価損益の合計額」は記載しておりません。
2．「評価損益の合計額」の()は外書きで、当事業年度の減損処理額であります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく 報酬(百万円)	非監査業務に基づく報 酬(百万円)	監査証明業務に基づく 報酬(百万円)	非監査業務に基づく報 酬(百万円)
提出会社	55	0	55	2
連結子会社	-	-	-	-
計	55	0	55	2

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社である極東貿易(上海)有限公司は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMGに対する監査証明業務に基づく報酬は6百万円であります。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社である極東貿易(上海)有限公司は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMGに対する監査証明業務に基づく報酬は6百万円であります。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としましては、インド現地法人の会計及び税務についてアドバイザリー業務を受けております。

(当連結会計年度)

当社は、リスクマネジメント体制について、あずさ監査法人よりアドバイザリー業務を受けております。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号、以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)及び当連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の連結財務諸表並びに前事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)及び当事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の財務諸表について、あずさ監査法人により監査を受けております。

1【連結財務諸表等】
 (1)【連結財務諸表】
 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,511	3,121
受取手形及び売掛金	15,765	11,779
有価証券	793	-
商品及び製品	1,289	1,802
仕掛品	5	8
原材料及び貯蔵品	8	12
前渡金	1,930	1,133
繰延税金資産	12	16
その他	1,124	1,216
貸倒引当金	34	35
流動資産合計	26,407	19,054
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	896	668
減価償却累計額	629	437
建物及び構築物(純額)	266	230
機械装置及び運搬具	58	53
減価償却累計額	44	43
機械装置及び運搬具(純額)	13	9
工具、器具及び備品	528	553
減価償却累計額	424	419
工具、器具及び備品(純額)	103	134
土地	196	151
リース資産	20	20
減価償却累計額	3	7
リース資産(純額)	16	12
有形固定資産合計	596	538
無形固定資産	179	364
投資その他の資産		
投資有価証券	5,775	6,729
長期貸付金	103	78
繰延税金資産	11	16
その他	1,148	1,383
貸倒引当金	74	66
投資その他の資産合計	6,964	8,141
固定資産合計	7,740	9,043
資産合計	34,148	28,098

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,257	9,835
1年内償還予定の社債	300	300
短期借入金	1,920	1,908
リース債務	4	4
未払法人税等	43	28
前受金	1,963	1,310
賞与引当金	275	147
違約損失引当金	3 1,375	-
繰延税金負債	21	20
その他	1,526	545
流動負債合計	19,688	14,101
固定負債		
社債	1,200	900
長期借入金	-	326
リース債務	14	9
長期未払金	192	72
繰延税金負債	19	352
退職給付引当金	963	796
固定負債合計	2,389	2,456
負債合計	22,077	16,558
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,030	5,030
資本剰余金	4,630	4,630
利益剰余金	3,549	2,261
自己株式	340	341
株主資本合計	12,870	11,580
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	416	240
繰延ヘッジ損益	62	2
為替換算調整勘定	321	283
評価・換算差額等合計	800	40
純資産合計	12,070	11,540
負債純資産合計	34,148	28,098

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
売上高	71,137	46,802
売上原価	64,662	41,882
売上総利益	6,474	4,919
販売費及び一般管理費		
役員報酬及び給料手当	2,335	2,016
従業員賞与	340	131
賞与引当金繰入額	244	140
退職給付費用	179	245
減価償却費	149	139
貸倒引当金繰入額	-	8
その他	2,955	2,501
販売費及び一般管理費合計	6,205	5,184 ¹
営業利益又は営業損失()	269	264
営業外収益		
受取利息	20	18
受取配当金	138	82
受取賃貸料	4	11
受取保険金	6	-
有価証券売却益	-	6
持分法による投資利益	348	153
その他	21	32
営業外収益合計	540	304
営業外費用		
支払利息	28	45
社債発行費	31	-
為替差損	112	34
その他	7	23
営業外費用合計	180	103
経常利益又は経常損失()	629	63
特別利益		
固定資産売却益	0 ²	6 ²
投資有価証券売却益	-	441
貸倒引当金戻入額	16	6
ゴルフ会員権売却益	39	27
特別利益合計	56	481

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
特別損失		
固定資産処分損	3 12	3 38
減損損失	4 6	4 0
投資有価証券売却損	-	52
投資有価証券評価損	928	295
違約損失金	-	5 847
違約損失引当金繰入額	1,256	-
ゴルフ会員権売却損	-	1
ゴルフ会員権評価損	-	6
事務所移転費用	-	26
早期退職関連費用	-	6 296
特別損失合計	2,204	1,566
税金等調整前当期純損失()	1,518	1,149
法人税、住民税及び事業税	95	66
法人税等調整額	1,255	13
法人税等合計	1,351	53
少数株主損失()	3	-
当期純損失()	2,867	1,202

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	5,030	5,030
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,030	5,030
資本剰余金		
前期末残高	4,630	4,630
当期変動額		
自己株式の処分	0	-
当期変動額合計	0	-
当期末残高	4,630	4,630
利益剰余金		
前期末残高	6,594	3,549
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	15	-
当期変動額		
剰余金の配当	200	100
当期純損失()	2,867	1,202
自己株式の処分	0	-
連結範囲の変動	39	14
当期変動額合計	3,029	1,288
当期末残高	3,549	2,261
自己株式		
前期末残高	339	340
当期変動額		
自己株式の取得	2	1
自己株式の処分	1	-
当期変動額合計	0	1
当期末残高	340	341
株主資本合計		
前期末残高	15,915	12,870
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	15	-
当期変動額		
剰余金の配当	200	100
当期純損失()	2,867	1,202
自己株式の取得	2	1
自己株式の処分	1	-
連結範囲の変動	39	14
当期変動額合計	3,029	1,289
当期末残高	12,870	11,580

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	725	416
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,141	656
当期変動額合計	1,141	656
当期末残高	416	240
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	64	62
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	65
当期変動額合計	2	65
当期末残高	62	2
為替換算調整勘定		
前期末残高	48	321
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	272	38
当期変動額合計	272	38
当期末残高	321	283
評価・換算差額等合計		
前期末残高	611	800
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,411	760
当期変動額合計	1,411	760
当期末残高	800	40
少数株主持分		
前期末残高	3	-
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3	-
当期変動額合計	3	-
当期末残高	-	-

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
純資産合計		
前期末残高	16,530	12,070
在外子会社の会計処理の変更に伴う増減	15	-
当期変動額		
剰余金の配当	200	100
当期純損失()	2,867	1,202
自己株式の取得	2	1
自己株式の処分	1	-
連結範囲の変動	39	14
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,414	760
当期変動額合計	4,444	529
当期末残高	12,070	11,540

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失()	1,518	1,149
減価償却費	150	141
減損損失	6	0
持分法による投資損益(は益)	348	153
賞与引当金の増減額(は減少)	69	127
退職給付引当金の増減額(は減少)	41	166
貸倒引当金の増減額(は減少)	122	6
違約損失引当金の増減額(は減少)	532	1,375
受取利息及び受取配当金	158	100
支払利息	28	45
社債発行費	31	-
投資有価証券評価損益(は益)	928	295
固定資産除売却損益(は益)	12	32
有価証券売却損益(は益)	-	6
投資有価証券売却損益(は益)	-	388
売上債権の増減額(は増加)	6,280	3,992
たな卸資産の増減額(は増加)	669	518
前渡金の増減額(は増加)	601	797
未収入金の増減額(は増加)	353	121
その他の流動資産の増減額(は増加)	79	23
仕入債務の増減額(は減少)	4,874	2,417
未払金の増減額(は減少)	989	1,052
前受金の増減額(は減少)	375	646
その他の流動負債の増減額(は減少)	94	48
その他	38	140
小計	2,834	3,089
利息及び配当金の受取額	235	258
利息の支払額	27	45
法人税等の支払額	113	73
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,928	2,950

	前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	213	673
定期預金の払戻による収入	68	402
有価証券の取得による支出	799	551
有価証券の売却による収入	300	1,354
投資有価証券の取得による支出	480	738
投資有価証券の売却による収入	0	861
固定資産の取得による支出	77	195
固定資産の売却による収入	-	66
短期貸付金の増減額（ は増加）	15	0
長期貸付金の増減額（ は増加）	3	29
差入保証金の増減額（ は増加）	1	137
その他	5	136
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,210	555
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	70	108
長期借入れによる収入	-	435
社債の発行による収入	1,468	-
社債の償還による支出	-	300
自己株式の取得による支出	2	1
自己株式の売却による収入	1	-
配当金の支払額	199	101
その他	3	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,334	80
現金及び現金同等物に係る換算差額	128	13
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	2,923	2,460
現金及び現金同等物の期首残高	2,425	5,348
現金及び現金同等物の期末残高	5,348	2,887

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

前連結会計年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<p>1 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 連結の範囲に含めた子会社は5社であります。連結子会社は、「第1 企業の概況」の4 関係会社の状況に記載しております。</p> <p>(2) 連結の範囲に含まれない子会社は、KBK Europe GmbH及びKyokuto Trading(India) Private Limitedの2社でその合計額において、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等はいずれも小規模であり、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていません。</p> <p>2 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法を適用した会社はABB日本ベレー(株)、Adaptive Energy Systems, Inc.及び藤倉化成塗料(天津)有限公司の3社であります。なお、藤倉化成塗料(天津)有限公司は、重要性が増したことにより当連結会計年度より持分法適用会社としております。</p> <p>(2) 持分法を適用しない会社は非連結子会社KBK Europe GmbH, Kyokuto Trading(India) Private Limited及び関連会社新昌越峰不銹鋼鑄造有限公司、尼利可自動控制機器(上海)有限公司、滄州正旭精密鑄造有限公司、(株)ソキエ、藤倉化成(佛山)塗料有限公司で、その合計額において、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要な影響を及ぼしていません。</p> <p>3 連結子会社の事業年度等に関する事項</p> <p>連結子会社のうちKBK Incの決算日は1月31日、また極東貿易(上海)有限公司の決算日は12月31日であり、決算日の差異が3ヶ月を超えていないので当該子会社の決算を基礎として連結財務諸表を作成しております。</p> <p>なお、決算日が異なることから生じる連結会社間の重要な取引の差異については、連結財務諸表作成上必要な調整を行っております。</p> <p>4 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>イ 有価証券</p> <p> その他有価証券</p> <p> 時価のあるもの</p> <p> 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理、売却原価は移動平均法により算出)</p> <p> 時価のないもの</p> <p> 移動平均法による原価法</p> <p>ロ デリバティブ</p> <p> 時価法</p>	<p>1 連結の範囲に関する事項</p> <p>(1) 同左</p> <p>(2) 連結の範囲に含まれない子会社は、KBK Europe GmbH及びKyokuto Trading(India) Private Limited, KBKスチールプロダクツ(株)及び3 DDS名古屋有限責任事業組合の4社でその合計額において、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等はいずれも小規模であり、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていません。</p> <p>2 持分法の適用に関する事項</p> <p>(1) 持分法を適用した会社はABB日本ベレー(株)、Adaptive Energy Systems, Inc.、藤倉化成塗料(天津)有限公司及び藤倉化成(佛山)塗料有限公司の4社であります。なお、藤倉化成(佛山)塗料有限公司は、重要性が増したことにより当連結会計年度より持分法適用会社としております。</p> <p>(2) 持分法を適用しない会社は非連結子会社KBK Europe GmbH, Kyokuto Trading(India) Private Limited, KBKスチールプロダクツ(株)、3 DDS名古屋有限責任事業組合及び関連会社新昌越峰不銹鋼鑄造有限公司、尼利可自動控制機器(上海)有限公司、滄州正旭精密鑄造有限公司、(株)ソキエ、上海藤倉化成塗料有限公司で、その合計額において、当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要な影響を及ぼしていません。</p> <p>3 連結子会社の事業年度等に関する事項</p> <p>同左</p> <p>4 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>イ 有価証券</p> <p>同左</p> <p>ロ デリバティブ</p> <p>同左</p>

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>八 たな卸資産</p> <p>当社及び国内連結子会社は主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）、但し一部個別受注品については個別法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用し、在外連結子会社は先入先出法による低価法を採用しております。</p> <p>（会計方針の変更）</p> <p>当連結会計年度より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日公表分）を適用しております。</p> <p>この変更による、損益に与える影響はありません。</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却方法</p> <p>イ 有形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>当社及び国内連結子会社は定率法を採用し、耐用年数及び残存価額については法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。在外連結子会社は主として見積耐用年数に基づく定額法を採用しております。</p> <p>ロ 無形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>定額法を採用しております。</p> <p>なお、自社利用のソフトウェアについては当社の利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。</p> <p>八 リース資産</p> <p>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>イ 貸倒引当金</p> <p>当社及び国内連結子会社は債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>ロ 賞与引当金</p> <p>当社及び国内連結子会社は従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>八 違約損失引当金</p> <p>防衛省への過大請求事案に対しての返金に備えるため、第三者調査委員会の算定額に基づき計上しております。</p>	<p>八 たな卸資産</p> <p>同左</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却方法</p> <p>イ 有形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>同左</p> <p>ロ 無形固定資産（リース資産を除く）</p> <p>同左</p> <p>八 リース資産</p> <p>同左</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>イ 貸倒引当金</p> <p>同左</p> <p>ロ 賞与引当金</p> <p>同左</p> <p>八</p>

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>二 退職給付引当金</p> <p>当社及び国内連結子会社は従業員の将来の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による按分額をそれぞれ発生の翌連結会計年度より費用処理しております。</p> <p>(4) 重要なヘッジ会計の方法</p> <p>イ ヘッジ会計の方法</p> <p>繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、為替予約については振当処理の要件を満たしている場合は、振当処理を採用しております。</p> <p>ロ ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>ヘッジ手段...為替予約 ヘッジ対象...外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引</p> <p>ハ ヘッジ方針</p> <p>社内管理制度に基づき、提出会社経理部及び各子会社管理部門にて契約の管理を行い、為替変動リスクをヘッジしております。</p> <p>ニ ヘッジ有効性評価の方法</p> <p>為替予約については、ヘッジ対象となる為替予約の通貨種別、期日、金額の同一性を確認することにより有効性を判定しております。</p> <p>(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項</p> <p>繰延資産の処理方法 社債発行費 支出時に全額費用処理しております。 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。</p> <p>5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項</p> <p>全面時価評価法によっております。</p>	<p>二 退職給付引当金</p> <p>同左</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>当連結会計年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。</p> <p>この変更による、損益に与える影響はありません。</p> <p>(4) 重要なヘッジ会計の方法</p> <p>イ ヘッジ会計の方法</p> <p>繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、為替予約については振当処理の要件を満たしている場合は、振当処理を採用しております。</p> <p>又、金利スワップの特例処理の要件を満たすものについては、特例処理を採用しております。</p> <p>ロ ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>ヘッジ手段...為替予約、金利スワップ ヘッジ対象...外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引、借入金</p> <p>ハ ヘッジ方針</p> <p>社内管理制度に基づき、提出会社経理部及び各子会社管理部門にて契約の管理を行い、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしております。</p> <p>ニ ヘッジ有効性評価の方法</p> <p>為替予約については、ヘッジ対象の通貨種別、期日、金額の同一性を確認することにより有効性を判定しております。</p> <p>ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。</p> <p>(5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項</p> <p>消費税等の会計処理 同左</p> <p>5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項</p> <p>同左</p>

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
6 のれん及び負ののれんの償却に関する事項 該当事項はありません。 7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び 現金同等物)は手許現金、随時引き出し可能な預金及び取 得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する定期預金から なっております。	6 のれん及び負ののれんの償却に関する事項 のれんは、5年間で均等償却しております。 7 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 同左

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当連結会計年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。</p> <p>これによる、損益に与える影響はありません。</p> <p>(連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い)</p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。</p> <p>これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益は、それぞれ15百万円増加しております。</p>	

【表示方法の変更】

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>(連結貸借対照表)</p> <p>1. 「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成20年8月7日内閣府令第50号)が適用となることに伴い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」に区分掲記しております。なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品及び製品」「仕掛品」「原材料及び貯蔵品」は、それぞれ2,006百万円、7百万円、15百万円であります。</p> <p>2. 前連結会計年度まで流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「前渡金」は、当連結会計年度において、資産の総額の100分の5を超えたため区分掲記しました。 なお、前連結会計年度末の「前渡金」は1,338百万円あります。</p> <p>3. 前連結会計年度まで流動負債の「その他」に含めて表示しておりました「前受金」は、当連結会計年度において、負債及び純資産の合計額の100分の5を超えたため区分掲記しました。 なお、前連結会計年度末の「前受金」は1,593百万円あります。</p> <p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>前連結会計年度まで区分掲記しておりました「固定資産売却益」(当連結会計年度は0百万円)及び「固定資産関連損」(当連結会計年度は12百万円)は、E D I N E TへのX B R L導入に伴い連結財務諸表の比較可能性を向上するため、当連結会計年度より「固定資産除売却損益(は益)」として表示しております。</p>	

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成21年3月31日)			当連結会計年度 (平成22年3月31日)		
1 非連結子会社及び関連会社に対する主な資産及び負債は次の通りです。			1 非連結子会社及び関連会社に対する主な資産及び負債は次の通りです。		
固定資産	投資有価証券 (株式) その他(出資金)	598百万円 292百万円	固定資産	投資有価証券 (株式) その他(出資金)	704百万円 488百万円
2 偶発債務			2 偶発債務		
銀行借入等に対する保証債務			銀行借入等に対する保証債務		
		98百万円			56百万円
うち主なもの			うち主なもの		
アカギヘリコプター(株)			アカギヘリコプター(株)		
		97百万円			56百万円
3 違約損失引当金			3		
防衛省への過大請求事案に対する返金に備えるため、第三者調査委員会の調査による算定額に基づき計上しておりますが、防衛省の調査は未だ完了していません。防衛省に対する返金額は一部確定しておりません。確定した部分は未払金に計上し、未確定部分は違約損失引当金に計上しております。					

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																								
<p>1</p> <p>2 固定資産の売却益は機械装置の売却によるものであります。</p> <p>3 固定資産処分損の内訳は次の通りであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">8百万円</td> </tr> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">12</td> </tr> </table> <p>4 減損損失 当連結会計年度において当グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">場所</th> <th style="width: 40%;">用途</th> <th style="width: 40%;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>兵庫県淡路市 他1件</td> <td>遊休資産</td> <td>建物、土地</td> </tr> </tbody> </table> <p>当グループは、事業用資産は全体で1つの資産グループとし、遊休資産は物件ごとにグルーピングしてあります。</p> <p>一部の遊休資産について、資産価値が帳簿価額に対して著しく下落している為、回収可能価額まで帳簿価額を減額し、当該減少額を減損損失(6百万円)として特別損失に計上しました。</p> <p>その内訳は、建物4百万円及び土地2百万円であります。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却可能価額により測定しており、不動産鑑定士による評価額を基礎としております。</p> <p>5</p> <p>6</p>	工具、器具及び備品	8百万円	機械装置及び運搬具	3	建物及び構築物	0	計	12	場所	用途	種類	兵庫県淡路市 他1件	遊休資産	建物、土地	<p>1 一般管理費に含まれる研究開発費は7百万円であり ます。</p> <p>2 固定資産売却益の内訳は次の通りであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">2百万円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6</td> </tr> </table> <p>3 固定資産処分損の内訳は次の通りであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">土地、建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">35百万円</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">38</td> </tr> </table> <p>4 減損損失 当連結会計年度において当グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">場所</th> <th style="width: 40%;">用途</th> <th style="width: 40%;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>静岡県伊豆の国市</td> <td>遊休資産</td> <td>土地</td> </tr> </tbody> </table> <p>当グループは、事業用資産は全体で1つの資産グループとし、遊休資産は物件ごとにグルーピングしてあります。</p> <p>一部の遊休資産について、資産価値が帳簿価額に対して著しく下落している為、回収可能価額まで帳簿価額を減額し、当該減少額を減損損失(0百万円)として特別損失に計上しました。</p> <p>その内訳は、土地0百万円であります。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却可能価額により測定しており、路線価による評価額を基礎としております。</p> <p>5 違約損失金 防衛省の調査に基づき平成21年12月17日に通知された過大請求に係る違約金の請求額と、請求時における違約損失引当金との差額であります。差額が発生した主な理由は、同省との見解の相違がある中、調査範囲が拡大し当社が把握し得なかった取引について過大請求の事実が明らかになったことなどによるものであります。</p> <p>6 特別損失の早期退職関連費用の内訳は次の通りであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">割増退職金</td> <td style="text-align: right;">281百万円</td> </tr> <tr> <td>再就職支援業務委託料</td> <td style="text-align: right;">14</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">296</td> </tr> </table>	工具、器具及び備品	2百万円	その他	3	計	6	土地、建物及び構築物	35百万円	工具、器具及び備品	2	その他	1	計	38	場所	用途	種類	静岡県伊豆の国市	遊休資産	土地	割増退職金	281百万円	再就職支援業務委託料	14	計	296
工具、器具及び備品	8百万円																																								
機械装置及び運搬具	3																																								
建物及び構築物	0																																								
計	12																																								
場所	用途	種類																																							
兵庫県淡路市 他1件	遊休資産	建物、土地																																							
工具、器具及び備品	2百万円																																								
その他	3																																								
計	6																																								
土地、建物及び構築物	35百万円																																								
工具、器具及び備品	2																																								
その他	1																																								
計	38																																								
場所	用途	種類																																							
静岡県伊豆の国市	遊休資産	土地																																							
割増退職金	281百万円																																								
再就職支援業務委託料	14																																								
計	296																																								

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	27,899	-	-	27,899
合計	27,899	-	-	27,899
自己株式				
普通株式	1,109	13	6	1,116
合計	1,109	13	6	1,116

(変動事由の概要)

- (1) 普通株式の自己株式の株式数の増加13千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。
- (2) 普通株式の自己株式の株式数の減少6千株は、単元未満株式の買増し請求によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月18日 定時株主総会	普通株式	100	3.75	平成20年3月31日	平成20年6月19日
平成20年11月6日 取締役会	普通株式	100	3.75	平成20年9月30日	平成20年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月24日 定時株主総会	普通株式	100	利益剰余金	3.75	平成21年3月31日	平成21年6月25日

当連結会計年度（自平成21年4月1日至平成22年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	27,899	-	-	27,899
合計	27,899	-	-	27,899
自己株式				
普通株式	1,116	10	-	1,127
合計	1,116	10	-	1,127

（変動事由の概要）

普通株式の自己株式の株式数の増加10千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成21年6月24日 定時株主総会	普通株式	100	3.75	平成21年3月31日	平成21年6月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成22年6月23日 定時株主総会	普通株式	100	利益剰余金	3.75	平成22年3月31日	平成22年6月24日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

前連結会計年度 （自平成20年4月1日 至平成21年3月31日）	当連結会計年度 （自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）
1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に 掲記されている科目の金額の関係 (平成21年3月31日現在)	1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に 掲記されている科目の金額の関係 (平成22年3月31日現在)
現金及び預金勘定 5,511百万円	現金及び預金勘定 3,121百万円
預入期間が3ヶ月を超える 162百万円	預入期間が3ヶ月を超える 234百万円
定期預金	定期預金
5,348百万円	2,887百万円

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																																												
<p>1. ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容 (ア) 有形固定資産 事務機器(工具、器具及び備品)他であります。 (イ) 無形固定資産 ソフトウェアであります。 (2) リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(2)重要な減価償却資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;"></th> <th style="text-align: center; width: 10%;">工具、器具 及び備品他</th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取得価額相当額</td> <td style="text-align: center;">22百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>減価償却累計額相当額</td> <td style="text-align: center;">12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>期末残高相当額</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;"></th> <th style="text-align: center; width: 10%;"></th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年内</td> <td style="text-align: center;">3百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">9</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: center; width: 10%;">11百万円</td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: center;">11百万円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。 なお、未経過リース料期末残高相当額が有形固定資産等の期末残高に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。</p>		工具、器具 及び備品他		取得価額相当額	22百万円		減価償却累計額相当額	12		期末残高相当額	9					1年内	3百万円		1年超	6		合計	9		支払リース料	11百万円		減価償却費相当額	11百万円		<p>1. ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容 (ア) 有形固定資産 同左 (イ) 無形固定資産 同左 (2) リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;"></th> <th style="text-align: center; width: 10%;">工具、器具 及び備品他</th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取得価額相当額</td> <td style="text-align: center;">22百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>減価償却累計額相当額</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>期末残高相当額</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 80%;"></th> <th style="text-align: center; width: 10%;"></th> <th style="width: 10%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年内</td> <td style="text-align: center;">2百万円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: center; width: 10%;">3百万円</td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: center;">3百万円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>減価償却費相当額の算定方法 同左</p> <p>(減損損失について) 同左</p>		工具、器具 及び備品他		取得価額相当額	22百万円		減価償却累計額相当額	16		期末残高相当額	6					1年内	2百万円		1年超	3		合計	6		支払リース料	3百万円		減価償却費相当額	3百万円	
	工具、器具 及び備品他																																																												
取得価額相当額	22百万円																																																												
減価償却累計額相当額	12																																																												
期末残高相当額	9																																																												
1年内	3百万円																																																												
1年超	6																																																												
合計	9																																																												
支払リース料	11百万円																																																												
減価償却費相当額	11百万円																																																												
	工具、器具 及び備品他																																																												
取得価額相当額	22百万円																																																												
減価償却累計額相当額	16																																																												
期末残高相当額	6																																																												
1年内	2百万円																																																												
1年超	3																																																												
合計	6																																																												
支払リース料	3百万円																																																												
減価償却費相当額	3百万円																																																												

(金融商品関係)

当連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当グループは、営業計画に照らして、必要な資金を調達(主に銀行借入や社債発行)しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券は、その他有価証券及び業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが短期の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、先物為替予約を利用してヘッジしております。

借入金及び社債は、主に運転資金に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後4年であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(4) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、内部管理規程に従い、営業債権について、担当部署が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。また、当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた管理規程に従い、担当部署が決済担当者の承認を得て行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2.参照）。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	3,121	3,121	-
(2) 受取手形及び売掛金	11,779	11,779	-
(3) 投資有価証券	5,081	5,081	-
資産計	19,983	19,983	-
(1) 支払手形及び買掛金	9,835	9,835	-
(2) 短期借入金	1,799	1,799	-
(3) 社債(*1)	1,200	1,202	2
(4) 長期借入金(*1)	435	432	2
負債計	13,270	13,270	0
デリバティブ取引(*2)	4	4	-

(*1) 1年以内に期限到来の社債及び長期借入金を含めております。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 社債

これらの時価は、市場価格のあるものは市場価格に基づき、市場価格のないものは、元利金の合計額を当該社債の残存期間及び信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(4) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額(百万円)
非上場株式他(*1)	942
関係会社株式(*1)	704
関係会社出資金(*2)	488
差入保証金(*3)	447

(*1) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含まれておりません。

(*2) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価評価をしておりません。

(*3) 将来キャッシュ・フローの見積もりが極めて困難と認められることから、時価評価をしておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)
現金及び預金	3,121	-	-
受取手形及び売掛金	11,779	-	-
投資有価証券			
その他有価証券のうち満期が あるもの			
(1) 債券			
社債	-	24	-
その他	-	200	-
(2) その他	-	100	200
合計	14,901	324	200

4. 社債、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「社債明細表」及び「借入金等明細表」をご参照下さい。

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成21年3月31日)

1 その他有価証券で時価のあるもの

区分	取得原価(百万円)	連結貸借対照表 計上額(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	1,210	1,853	643
小計	1,210	1,853	643
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式	2,525	1,863	661
(2) 債券	342	324	17
(3) その他	478	332	145
小計	3,346	2,521	825
合計	4,556	4,374	181

(注) 表中の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であり、当連結会計年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損851百万円を計上しております。

株式の減損処理に当たっては、当該会計期間末の時価が帳簿価額に比べて50%以上下落した銘柄全てを対象とするほか、過去2年間の平均価格を時価として、その価格が帳簿価額に比べて30%以上下落した銘柄についても全て減損処理を行っております。

2 当連結会計年度に売却したその他有価証券

売却額(百万円)	売却益の合計(百万円)	売却損の合計(百万円)
300	-	-

3 時価評価されていない主な有価証券

区分	連結貸借対照表 計上額(百万円)
その他有価証券	
(1) 非上場株式	1,036
(2) その他	560
合計	1,596

(注) その他有価証券で時価のない株式について減損処理を行い、投資有価証券評価損76百万円を計上しております。

なお、当該株式の減損にあたっては、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除き、実質価額が簿価に比べ50%以上下落しているものにつき減損処理を行っております。

4 その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超(百万円)
1. 債券				
(1) 社債	98	0	-	-
(2) 転換社債	196	-	-	-
(3) その他	499	30	-	-
2. その他	-	60	55	-
合計	793	91	55	-

当連結会計年度(平成22年3月31日)

1 その他有価証券

種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
(1) 株式	3,199	2,033	1,166
(2) 債券	53	45	8
(3) その他	228	219	9
小計	3,482	2,298	1,184
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
(1) 株式	1,366	1,677	310
(2) その他	233	267	34
小計	1,599	1,944	345
合計	5,081	4,243	838

(注) 非上場株式及びその他(連結貸借対照表計上額 942百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	764	441	52
(2) 債券	451	6	-
(3) その他	999	-	-
合計	2,215	448	52

3 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、有価証券について295百万円(その他有価証券の株式)減損処理を行っております。
なお、株式の減損処理に当たっては、当該会計期間末の時価が帳簿価額に比べて50%以上下落した銘柄全てを対象とするほか、過去2年間の平均価格を時価として、その価格が帳簿価額に比べて30%以上下落した銘柄についても全て減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

1 取引の状況に関する事項

当社は、外貨建の金銭債権債務等に係る為替レート変動のリスクをヘッジするため為替予約取引を利用しております。

為替予約についての基本方針は、実需のあるものに限ることとし、営業部が個々の取引について為替先物予約を立案し、経理部を通して予約の締結及び実行を行います。経理部は全社の予約取引を集中管理しております。

なお、為替予約取引の契約先は信用度の高い金融機関であるため、信用リスクはないものと判断しております。

2 取引の時価等に関する事項

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益

通貨関連

区分	種類	前連結会計年度 (平成21年3月31日)			
		契約額等 (百万円)	契約額等の うち1年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	156	-	152	4
	その他	40	-	44	3
	小計	197	-	196	1
	買建				
	米ドル	1,217	155	1,198	19
	英ポンド	19	-	20	0
	ユーロ	52	-	51	1
	その他	429	-	385	43
	小計	1,719	155	1,656	63
合計	-	-	-	62	

(注) 1 時価の算定方法

期末の時価は先物相場を使用しております。

当連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

1 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成22年3月31日)		
			契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
原則的処理方法	為替予約取引 売建	売掛金	28	-	0
	米ドル				
	買建				
	米ドル				
	英ポンド				
	ユーロ				
その他	買掛金	0	-	0	
為替予約等の振当処理	為替予約取引 売建	売掛金	22	-	(注2)
	米ドル				
	買建				
	米ドル				
	英ポンド				
	ユーロ				
合計		833	-	4	

(注) 1. 時価の算定方法 取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金及び買掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金及び買掛金の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	当連結会計年度(平成22年3月31日)		
			契約額等 (百万円)	契約額等のうち1年超 (百万円)	時価 (百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	435	326	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は退職一時金制度を設けております。また、当社は退職一時金制度とは別途に適格退職年金制度を採用していましたが、平成21年12月1日より規約型企業年金制度に移行しております。また、従業員の退職等に際して退職給付会計に準拠した数理計算による退職給付債務の対象とされない割増退職金を支払う場合があります。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
イ 退職給付債務	2,327 百万円	1,950 百万円
(内訳)退職一時金制度	934	716
適格退職年金制度	1,392	-
規約型企業年金制度	-	1,233
ロ 年金資産	850	865
ハ 未認識数理計算上の差異	514	288
ニ 退職給付引当金(イ - ロ - ハ)	963	796

(注) 国内連結子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
イ 勤務費用	80 百万円	79 百万円
ロ 利息費用	47	45
ハ 期待運用収益	17	12
ニ 数理計算上の差異の費用処理額	47	78
ホ 臨時に支払った割増退職金等	22	52
ヘ 退職給付費用(イ + ロ + ハ + ニ + ホ)	180	243

(注) 簡便法を採用している国内連結子会社の退職給付費用は、勤務費用に計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)
イ 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	期間定額基準
ロ 割引率	2.0%	2.0%
ハ 期待運用収益率	1.5%	1.5%
ニ 数理計算上の差異の処理年数	11年(各連結会計年度の発生時の従業員 の平均残存勤務期間 以内の一定年数による按分額 をそれぞれ発生の翌連結会計 年度から費用処理することと しております。)	同左

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																																																																														
<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産(流動資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">111百万円</td></tr> <tr><td>賞与引当金に係る</td><td style="text-align: right;">14</td></tr> <tr><td>法定福利費</td><td style="text-align: right;">44</td></tr> <tr><td>たな卸資産</td><td style="text-align: right;">511</td></tr> <tr><td>違約損失引当金</td><td style="text-align: right;">294</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">24</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,001</td></tr> </table> <p>繰延税金資産(固定資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>ゴルフ会員権</td><td style="text-align: right;">30</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">389</td></tr> <tr><td>長期未払金</td><td style="text-align: right;">77</td></tr> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">421</td></tr> <tr><td>減損損失</td><td style="text-align: right;">62</td></tr> <tr><td>投資有価証券</td><td style="text-align: right;">110</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">27</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">8</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,129</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,107</td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">23</td></tr> </table> <p>繰延税金負債(流動負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物圧縮記帳積立金(短期)</td><td style="text-align: right;">1</td></tr> <tr><td>未収計上受取配当金</td><td style="text-align: right;">20</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">21</td></tr> </table> <p>繰延税金負債(固定負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>建物圧縮記帳積立金(長期)</td><td style="text-align: right;">19</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">19</td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">41</td></tr> <tr><td>繰延税金負債純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">17</td></tr> </table>	賞与引当金	111百万円	賞与引当金に係る	14	法定福利費	44	たな卸資産	511	違約損失引当金	294	その他	24	小計	1,001	ゴルフ会員権	30	退職給付引当金	389	長期未払金	77	繰越欠損金	421	減損損失	62	投資有価証券	110	貸倒引当金	27	その他	8	小計	1,129	評価性引当額	2,107	繰延税金資産計	23	建物圧縮記帳積立金(短期)	1	未収計上受取配当金	20	小計	21	建物圧縮記帳積立金(長期)	19	小計	19	繰延税金負債計	41	繰延税金負債純額	17	<p>1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳</p> <p>繰延税金資産(流動資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">59百万円</td></tr> <tr><td>たな卸資産</td><td style="text-align: right;">47</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">33</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">140</td></tr> </table> <p>繰延税金資産(固定資産)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>繰越欠損金</td><td style="text-align: right;">1,924</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">322</td></tr> <tr><td>投資有価証券</td><td style="text-align: right;">225</td></tr> <tr><td>長期未払金</td><td style="text-align: right;">29</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">26</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">26</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,554</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,662</td></tr> <tr><td>繰延税金資産計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">32</td></tr> </table> <p>繰延税金負債(流動負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>未収計上受取配当金</td><td style="text-align: right;">17</td></tr> <tr><td>建物圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">1</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">2</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">20</td></tr> </table> <p>繰延税金負債(固定負債)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>その他有価証券評価差額金</td><td style="text-align: right;">333</td></tr> <tr><td>建物圧縮積立金</td><td style="text-align: right;">18</td></tr> <tr><td>小計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">352</td></tr> <tr><td>繰延税金負債計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">372</td></tr> <tr><td>繰延税金負債純額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">340</td></tr> </table>	賞与引当金	59百万円	たな卸資産	47	その他	33	小計	140	繰越欠損金	1,924	退職給付引当金	322	投資有価証券	225	長期未払金	29	貸倒引当金	26	その他	26	小計	2,554	評価性引当額	2,662	繰延税金資産計	32	未収計上受取配当金	17	建物圧縮積立金	1	その他	2	小計	20	その他有価証券評価差額金	333	建物圧縮積立金	18	小計	352	繰延税金負債計	372	繰延税金負債純額	340
賞与引当金	111百万円																																																																																														
賞与引当金に係る	14																																																																																														
法定福利費	44																																																																																														
たな卸資産	511																																																																																														
違約損失引当金	294																																																																																														
その他	24																																																																																														
小計	1,001																																																																																														
ゴルフ会員権	30																																																																																														
退職給付引当金	389																																																																																														
長期未払金	77																																																																																														
繰越欠損金	421																																																																																														
減損損失	62																																																																																														
投資有価証券	110																																																																																														
貸倒引当金	27																																																																																														
その他	8																																																																																														
小計	1,129																																																																																														
評価性引当額	2,107																																																																																														
繰延税金資産計	23																																																																																														
建物圧縮記帳積立金(短期)	1																																																																																														
未収計上受取配当金	20																																																																																														
小計	21																																																																																														
建物圧縮記帳積立金(長期)	19																																																																																														
小計	19																																																																																														
繰延税金負債計	41																																																																																														
繰延税金負債純額	17																																																																																														
賞与引当金	59百万円																																																																																														
たな卸資産	47																																																																																														
その他	33																																																																																														
小計	140																																																																																														
繰越欠損金	1,924																																																																																														
退職給付引当金	322																																																																																														
投資有価証券	225																																																																																														
長期未払金	29																																																																																														
貸倒引当金	26																																																																																														
その他	26																																																																																														
小計	2,554																																																																																														
評価性引当額	2,662																																																																																														
繰延税金資産計	32																																																																																														
未収計上受取配当金	17																																																																																														
建物圧縮積立金	1																																																																																														
その他	2																																																																																														
小計	20																																																																																														
その他有価証券評価差額金	333																																																																																														
建物圧縮積立金	18																																																																																														
小計	352																																																																																														
繰延税金負債計	372																																																																																														
繰延税金負債純額	340																																																																																														
<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p>連結財務諸表規則第15条の5第1項第2号の規定に基づく注記については、税金等調整前当期純損失のため記載を省略しております。</p>	<p>2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <p style="text-align: right;">同左</p>																																																																																														

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当社及び連結子会社は、国内及び海外における各種商品の売買を中心に、それらの取引に関連するエンジニアリング商社としての活動を通して、金融・サービス等の役務提供と一体となった総合的な営業活動を行っております。

セグメントの区分は、経営管理上の事業区分を適用しております。

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

	電機・エネルギー関連 (百万円)	電子・航空 関連 (百万円)	一般産業関連 (百万円)	合計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	34,357	13,753	23,026	71,137	-	71,137
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	34,357	13,753	23,026	71,137	-	71,137
営業費用	34,089	14,052	22,740	70,882	(14)	70,867
営業利益又は営業損失 ()	268	299	285	254	14	269
総資産、減価償却費、 減損損失及び 資本的支出						
総資産	3,855	3,230	12,689	19,775	14,372	34,148
減価償却費	0	38	7	46	103	149
減損損失	-	-	-	-	6	6
資本的支出	0	14	10	25	123	149

(注) 1 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

- 2 資本的支出には長期前払費用が含まれております。
- 3 各区分に属する主要な商品

事業区分	主要商品
電機・エネルギー関連	電気機械設備、計装制御システム、石油掘削関連機器、石油・天然ガス探鉱技術サービスなどの資源開発機器
電子・航空関連	電子機器、電子部品及びソフトウェア、画像処理装置、航空機搭載電子機器、地上支援電子機器、航空機用機材、航法装置、自動車照明機器
一般産業関連	鉄鋼、非鉄、自動車、化学、造船、プラントエンジニアリングなどの関連機械装置、環境保全設備、複合材料製造設備、繊維加工機械、食肉加工機、樹脂加工機械、塗装設備、測定・分析装置及び、それぞれに関連する食品用副資材、工業用樹脂・塗料、建設用資材、合成複合材料、鋳鍛造品、繊維製品

- 4 営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は14百万円であり、その主なものは海外子会社への代理店手数料であります。
- 5 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は、14,372百万円であり、その主なものは、当社での余資運用資金(現金及び預金と有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等でありませぬ。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	電機・エネルギー関連 (百万円)	電子・航空 関連 (百万円)	一般産業関連 (百万円)	合計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	21,020	6,833	18,948	46,802	-	46,802
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	21,020	6,833	18,948	46,802	-	46,802
営業費用	20,960	7,219	18,880	47,059	6	47,066
営業利益又は営業損失 ()	59	386	68	257	(6)	264
総資産、減価償却費、 減損損失及び 資本的支出						
総資産	6,809	1,778	6,617	15,205	12,892	28,098
減価償却費	0	28	19	48	92	141
減損損失	-	-	-	-	0	0
資本的支出	0	28	35	64	308	372

(注) 1 事業区分の方法

事業は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2 各区分に属する主要な商品

事業区分	主要商品
電機・エネルギー関連	電気機械設備、計装制御システム、石油掘削関連機器、石油・天然ガス探鉱技術サービスなどの資源開発機器
電子・航空関連	電子機器、電子部品及びソフトウェア、画像処理装置、航空機搭載電子機器、地上支援電子機器、航空機用機材、航法装置、自動車照明機器
一般産業関連	鉄鋼、非鉄、自動車、化学、造船、プラントエンジニアリングなどの関連機械装置、環境保全設備、複合材料製造設備、繊維加工機械、食肉加工機、樹脂加工機械、塗装設備、測定・分析装置及び、それぞれに関連する食品用副資材、工業用樹脂・塗料、建設用資材、合成複合材料、鋳鍛造品、繊維製品

3 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は、12,892百万円であり、その主なものは、当社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	東南アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	65,914	2,699	2,523	71,137		71,137
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,288	922	14	2,225	(2,225)	
計	67,203	3,621	2,537	73,362	(2,225)	71,137
営業費用	67,153	3,760	2,219	73,133	(2,265)	70,867
営業利益又は営業損失 ()	50	138	317	229	39	269
資産	18,403	719	1,521	20,644	13,503	34,148

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の各区分に属する主な国又は地域

(1) 北米.....米国、カナダ

(2) 東南アジア.....中国、台湾

3 営業費用のうち消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は14百万円であり、その主なものは海外子会社への代理店手数料であります。

4 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた金額及び主な内容は、事業の種類別セグメント情報の(注) 5 と同一であります。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	東南アジア (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	43,783	1,605	1,412	46,802		46,802
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,009	414	71	1,495	(1,495)	
計	44,793	2,020	1,484	48,297	(1,495)	46,802
営業費用	45,105	2,107	1,340	48,553	(1,487)	47,066
営業利益又は営業損失 ()	312	86	143	255	(8)	264
資産	13,525	708	1,310	15,544	12,553	28,098

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の各区分に属する主な国又は地域

(1) 北米.....米国

(2) 東南アジア.....中国、台湾

3 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた金額及び主な内容は、事業の種類別セグメント情報の(注) 3 と同一であります。

【海外売上高】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

	北米地域	欧州地域	東南アジア地域	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	7,457	700	9,465	79	17,702
連結売上高(百万円)					71,137
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	10.5	1.0	13.3	0.1	24.9

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 北米.....米国、カナダ
- (2) 欧州.....イギリス、スウェーデン、ドイツ
- (3) 東南アジア.....中国、韓国、台湾、シンガポール
- (4) その他.....チュニジア

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当連結会計年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

	北米地域	欧州地域	東南アジア地域	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	4,617	620	5,953	70	11,261
連結売上高(百万円)					46,802
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	9.9	1.3	12.7	0.2	24.1

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 北米.....米国、カナダ
- (2) 欧州.....イギリス、スウェーデン、ドイツ
- (3) 東南アジア.....中国、台湾、タイ、シンガポール
- (4) その他.....チュニジア

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

(追加情報)

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」(企業会計基準第11号 平成18年10月17日)及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日)を適用しております。

なお、これによる開示対象範囲の変更はありません。

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又は 職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	ABB日本ベーレー 株式会社	静岡県 伊豆の国市 原木	192	主として自動 制御装置 及び同機器 の設計製作	直接 間接 29.4 0	製品を当社 が販売 役員の兼任	商品の販売	18	受取手形 及び売掛金	11
									前渡金	960
							製品の仕入	4,883	支払手形 及び買掛金	1,144

(注) 1 上記金額のうち、営業取引について、取引金額には消費税等を含まず、科目の各期末残高には、消費税等を含んで表示しております。

2 当社取締役久世了が、代表取締役を兼務しております。

取引条件ないし取引条件の決定方針等

- (1) 商品の販売については、市場価格、総原価を勘案して当社見積価格を提示し、その都度交渉の上決定しております。
- (2) 製品の仕入については、当社取引先の希望価格を提示しABB日本ベーレー株式会社の総原価を勘案して、その都度価格交渉の上、一般取引条件と同様に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社はABB日本ベーレー株式会社であり、その要約財務諸表は以下のとおりであります。

	ABB日本ベーレー株式会社
流動資産合計	4,234百万円
固定資産合計	2,219百万円
流動負債合計	3,369百万円
固定負債合計	898百万円
純資産合計	2,185百万円
売上高	5,541百万円
税引前当期純利益金額	794百万円
当期純利益金額	889百万円

当連結会計年度(自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (百万円)	事業の 内容又は 職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
関連会社	ABB日本ベーレー 株式会社	静岡県 伊豆の国市 原木	192	主として自 動制御装置 及び同機器 の設計製作	直接 間接 29.4 0	製品を当社 が販売 役員の兼任	製品の仕入	5,543	支払手形 及び買掛金	1,175
									前渡金	15

(注) 1 上記金額のうち、営業取引について、取引金額には消費税等を含まず、科目の各期末残高には、消費税等を含んで表示しております。

2 当社取締役久世了が、代表取締役を兼務しております。

取引条件ないし取引条件の決定方針等

製品の仕入については、当社取引先の希望価格を提示し A B B 日本ベーレー株式会社の総原価を勘案して、その都度価格交渉の上、一般取引条件と同様に決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 重要な関連会社の要約財務情報

当連結会計年度において、重要な関連会社は A B B 日本ベーレー株式会社であり、その要約財務諸表は以下のとおりであります。

<u>A B B 日本ベーレー株式会社</u>	
流動資産合計	3,156百万円
固定資産合計	2,638百万円
流動負債合計	2,584百万円
固定負債合計	889百万円
純資産合計	2,320百万円
売上高	5,758百万円
税引前当期純利益金額	583百万円
当期純利益金額	346百万円

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)		当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	
1株当たり純資産額	450.67円	1株当たり純資産額	431.06円
1株当たり当期純損失金額()	107.05円	1株当たり当期純損失金額()	44.89円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、 1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式がないため 記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、 1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式がないため 記載しておりません。	
1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎		1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎	
連結損益計算書上の当期純損失()	2,867百万円	連結損益計算書上の当期純損失()	1,202百万円
普通株式に係る当期純損失()	2,867百万円	普通株式に係る当期純損失()	1,202百万円
普通株主に帰属しない金額の主な内訳 該当事項はありません。		普通株主に帰属しない金額の主な内訳 該当事項はありません。	
普通株式の期中平均株式数	26,788千株	普通株式の期中平均株式数	26,777千株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率(%)	担保	償還期限
		平成年月日					平成年月日
極東貿易(株)	第1回無担保社債(株式会社三井住友銀行保証付および適格機関投資家限定)(注)1,2	21.2.9	500 (100)	400 (100)	0.95	なし	26.2.7
極東貿易(株)	第2回無担保社債(株式会社三井住友銀行保証付および適格機関投資家限定)(注)1,2	21.3.31	500 (100)	400 (100)	1.11	なし	26.3.31
極東貿易(株)	第3回無担保社債(株式会社みずほ銀行保証付及び適格機関投資家限定)(注)1,2	21.3.31	500 (100)	400 (100)	1.02	なし	26.2.28
合計	-	-	1,500 (300)	1,200 (300)	-	-	-

(注)1.()内書は、1年以内の償還予定額であります。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年 以内 (百万円)	2年超3年 以内 (百万円)	3年超4年 以内 (百万円)	4年超5年 以内 (百万円)
300	300	300	300	-

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,920	1,799	1.52	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	108	1.95	-
1年以内に返済予定のリース債務	4	4	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	326	1.95	平成23年～平成26年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	14	9	-	平成23年～平成25年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	1,938	2,248	-	-

(注)1.「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	108	108	109	-
リース債務	4	3	1	-

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成21年4月1日 至平成21年6月30日	第2四半期 自平成21年7月1日 至平成21年9月30日	第3四半期 自平成21年10月1日 至平成21年12月31日	第4四半期 自平成22年1月1日 至平成22年3月31日
売上高(百万円)	10,496	13,141	10,001	13,162
税金等調整前四半期純利益 金額又は四半期純損失金額 ()(百万円)	437	46	1,061	395
四半期純利益金額又は四半 期純損失金額() (百万円)	427	83	1,068	377
1株当たり四半期純利益金 額又は四半期純損失金額 ()(円)	15.96	3.12	39.91	14.09

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,456	2,223
受取手形	932	688
売掛金	14,089 ²	10,503 ²
有価証券	793	-
商品及び製品	1,065	1,538
前渡金	1,915	1,091
前払費用	86	76
未収入金	665	813
未収消費税等	185	163
その他	288	209
貸倒引当金	17	10
流動資産合計	24,461	17,297
固定資産		
有形固定資産		
建物	856	628
減価償却累計額	596	403
建物(純額)	259	224
構築物	33	33
減価償却累計額	27	27
構築物(純額)	6	5
機械及び装置	44	44
減価償却累計額	38	40
機械及び装置(純額)	5	4
車両運搬具	6	0
減価償却累計額	3	0
車両運搬具(純額)	2	0
工具、器具及び備品	461	526
減価償却累計額	368	400
工具、器具及び備品(純額)	93	126
土地	196	151
リース資産	20	20
減価償却累計額	3	7
リース資産(純額)	16	12
有形固定資産合計	581	524
無形固定資産		
のれん	-	13
特許権	4	3

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
借地権	71	71
商標権	0	-
ソフトウェア	89	263
電話加入権	9	9
リース資産	1	0
その他	1	1
無形固定資産合計	177	362
投資その他の資産		
投資有価証券	5,177	6,024
関係会社株式	666	702
出資金	10	7
関係会社出資金	241	413
従業員に対する長期貸付金	99	74
破産更生債権等	72	66
長期前払費用	43	70
差入保証金	556	419
その他	137	302
貸倒引当金	72	66
投資その他の資産合計	6,933	8,014
固定資産合計	7,692	8,902
資産合計	32,154	26,199
負債の部		
流動負債		
支払手形	2 2,019	2 1,975
買掛金	2 9,683	2 7,694
1年内償還予定の社債	300	300
短期借入金	1,920	1,593
リース債務	4	4
未払金	1,016	358
未払費用	9	7
未払法人税等	36	28
繰延税金負債	21	20
前受金	1,946	1,208
預り金	104	89
賞与引当金	267	140
違約損失引当金	3 1,375	-
その他	62	-
流動負債合計	18,768	13,422

	前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
固定負債		
社債	1,200	900
長期借入金	-	326
リース債務	14	9
長期未払金	187	70
繰延税金負債	19	352
退職給付引当金	934	765
固定負債合計	2,355	2,423
負債合計	21,123	15,846
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,030	5,030
資本剰余金		
資本準備金	4,630	4,630
資本剰余金合計	4,630	4,630
利益剰余金		
利益準備金	356	356
その他利益剰余金		
建物圧縮積立金	27	26
別途積立金	4,642	1,542
繰越利益剰余金	2,837	1,133
利益剰余金合計	2,188	791
自己株式	340	341
株主資本合計	11,509	10,110
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	416	240
繰延ヘッジ損益	62	2
評価・換算差額等合計	478	242
純資産合計	11,030	10,353
負債純資産合計	32,154	26,199

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
売上高	66,321	44,162
売上原価		
商品期首たな卸高	1,531	1,065
当期商品仕入高	60,273	40,299
合計	61,805	41,364
商品期末たな卸高	1,065	1,538
商品売上原価	60,740	39,825
売上総利益	5,581	4,336
販売費及び一般管理費		
役員報酬	229	173
従業員給料及び賞与	1,973	1,656
賞与引当金繰入額	243	140
退職給付費用	166	232
福利厚生費	398	318
交際費	105	73
旅費及び交通費	269	236
通信費	69	63
地代家賃	455	401
減価償却費	147	137
業務委託費	732	632
その他	739	551
販売費及び一般管理費合計	5,531	4,617 ²
営業利益又は営業損失()	50	281
営業外収益		
受取利息	9	6
有価証券利息	3	4
受取配当金	440	216 ¹
有価証券売却益	-	6
受取賃貸料	3	10
その他	9	17
営業外収益合計	466	262
営業外費用		
支払利息	27	29
社債利息	0	14
社債発行費	31	-
為替差損	24	35
その他	5	16
営業外費用合計	89	96
経常利益又は経常損失()	426	115

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	3 0	3 0
投資有価証券売却益	-	441
貸倒引当金戻入額	17	6
ゴルフ会員権売却益	39	27
特別利益合計	57	475
特別損失		
固定資産処分損	4 12	4 38
減損損失	5 6	5 0
投資有価証券売却損	-	52
投資有価証券評価損	903	295
子会社株式評価損	-	60
関係会社債権放棄損	-	42
違約損失金	-	6 847
違約損失引当金繰入額	1,256	-
ゴルフ会員権売却損	-	1
ゴルフ会員権評価損	-	6
早期退職関連費用	-	7 286
特別損失合計	2,179	1,634
税引前当期純損失()	1,696	1,274
法人税、住民税及び事業税	22	26
法人税等調整額	1,246	4
法人税等合計	1,269	22
当期純損失()	2,965	1,296

【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	5,030	5,030
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	5,030	5,030
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	4,630	4,630
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	4,630	4,630
その他資本剰余金		
前期末残高	0	-
当期変動額		
自己株式の処分	0	-
当期変動額合計	0	-
当期末残高	-	-
資本剰余金合計		
前期末残高	4,630	4,630
当期変動額		
自己株式の処分	0	-
当期変動額合計	0	-
当期末残高	4,630	4,630
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	356	356
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	356	356
その他利益剰余金		
建物圧縮積立金		
前期末残高	29	27
当期変動額		
建物圧縮積立金の取崩	1	1
当期変動額合計	1	1
当期末残高	27	26
別途積立金		
前期末残高	4,942	4,642
当期変動額		
別途積立金の取崩	300	3,100
当期変動額合計	300	3,100
当期末残高	4,642	1,542

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
繰越利益剰余金		
前期末残高	27	2,837
当期変動額		
剰余金の配当	200	100
建物圧縮積立金の取崩	1	1
別途積立金の取崩	300	3,100
当期純損失()	2,965	1,296
自己株式の処分	0	-
当期変動額合計	2,865	1,704
当期末残高	2,837	1,133
利益剰余金合計		
前期末残高	5,355	2,188
当期変動額		
剰余金の配当	200	100
建物圧縮積立金の取崩	-	-
別途積立金の取崩	-	-
当期純損失()	2,965	1,296
自己株式の処分	0	-
当期変動額合計	3,166	1,397
当期末残高	2,188	791
自己株式		
前期末残高	339	340
当期変動額		
自己株式の取得	2	1
自己株式の処分	1	-
当期変動額合計	0	1
当期末残高	340	341
株主資本合計		
前期末残高	14,676	11,509
当期変動額		
剰余金の配当	200	100
当期純損失()	2,965	1,296
自己株式の取得	2	1
自己株式の処分	1	-
当期変動額合計	3,167	1,398
当期末残高	11,509	10,110
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	725	416
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,141	656
当期変動額合計	1,141	656
当期末残高	416	240

	前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
繰延ヘッジ損益		
前期末残高	64	62
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	65
当期変動額合計	2	65
当期末残高	62	2
評価・換算差額等合計		
前期末残高	660	478
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,139	721
当期変動額合計	1,139	721
当期末残高	478	242
純資産合計		
前期末残高	15,336	11,030
当期変動額		
剰余金の配当	200	100
当期純損失（ ）	2,965	1,296
自己株式の取得	2	1
自己株式の処分	1	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,139	721
当期変動額合計	4,306	676
当期末残高	11,030	10,353

前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
<p>(2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(3) 違約損失引当金 防衛省への過大請求事案に対しての返金に備えるため、第三者調査委員会の算定額に基づき計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 従業員の将来の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(11年)による按分額をそれぞれ発生の翌事業年度より費用処理しております。</p> <p>7 ヘッジ会計の方法</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。 なお、為替予約については振当処理の要件を満たしている場合は、振当処理を採用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段...為替予約 ヘッジ対象...外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引</p> <p>(3) ヘッジ方針 社内管理制度に基づき、経理部にて契約の管理を行い為替変動リスクをヘッジしております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 為替予約については、ヘッジ対象となる為替予約の通貨種別、期日、金額の同一性を確認することにより有効性を判定しております。</p> <p>8 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。</p>	<p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3)</p> <p>(4) 退職給付引当金 同左</p> <p>(会計方針の変更) 当事業年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。 この変更による、損益に与える影響はありません。</p> <p>7 ヘッジ会計の方法</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理を採用しております。 なお、為替予約については振当処理の要件を満たしている場合は、振当処理を採用しております。 又、金利スワップの特例処理の要件を満たすものについては、特例処理を採用しております。</p> <p>(2) ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段...為替予約、金利スワップ ヘッジ対象...外貨建金銭債権債務、外貨建予定取引、借入金</p> <p>(3) ヘッジ方針 社内管理制度に基づき、経理部にて契約の管理を行い、為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしております。</p> <p>(4) ヘッジ有効性評価の方法 為替予約については、ヘッジ対象の通貨種別、期日、金額の同一性を確認することにより有効性を判定しております。 ただし、特例処理によっている金利スワップについては、有効性の評価を省略しております。</p> <p>8 消費税等の会計処理 同左</p>

【会計処理の変更】

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
<p>(リース取引に関する会計基準)</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> <p>なお、リース取引開始日が適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用しております。</p> <p>これによる、損益に与える影響はありません。</p>	

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
<p>1 偶発債務</p> <p>銀行借入等に対する保証債務</p> <p style="text-align: right;">176百万円</p> <p>うち主なもの</p> <p>アカギヘリコプター(株) 97百万円</p> <p>KBK Inc 77百万円</p> <p style="text-align: right;">(802千US\$)</p> <p>2 関係会社に係わる注記</p> <p>区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次の通りであります。</p> <p>受取手形及び売掛金 360百万円</p> <p>支払手形 555百万円</p> <p>買掛金 632百万円</p> <p>受取配当金 302百万円</p> <p>3 違約損失引当金</p> <p>防衛省への過大請求事案に対する返金に備えるため、第三者調査委員会の調査による算定額に基づき計上しておりますが、防衛省の調査は未だ完了していませんため、防衛省に対する返金額は一部確定していません。確定した部分は未払金に計上し、未確定部分は違約損失引当金に計上しております。</p>	<p>1 偶発債務</p> <p>銀行借入等に対する保証債務</p> <p style="text-align: right;">366百万円</p> <p>うち主なもの</p> <p>KBK Inc 310百万円</p> <p style="text-align: right;">(3,333千US\$)</p> <p>アカギヘリコプター(株) 56百万円</p> <p>2 関係会社に係わる注記</p> <p>区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次の通りであります。</p> <p>売掛金 431百万円</p> <p>支払手形 299百万円</p> <p>買掛金 1,009百万円</p> <p>3</p>

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)	当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)																		
<p>1</p> <p>2</p> <p>3 固定資産売却益は機械装置の売却によるものであります。</p> <p>4 固定資産処分損の内訳は、工具、器具及び備品 8 百万円、機械及び装置 3 百万円、建物 0 百万円、車両運搬具 0 百万円であります。</p> <p>5 減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">場所</th> <th style="text-align: center;">用途</th> <th style="text-align: center;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">兵庫県淡路市 他 1 件</td> <td style="text-align: center;">遊休資産</td> <td style="text-align: center;">建物、土地</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は、事業用資産は全体で 1 つの資産グループとし、遊休資産は物件ごとにグルーピングしております。一部の遊休資産について、資産価値が帳簿価額に対して著しく下落している為、回収可能価額まで帳簿価額を減額し、当該減少額を減損損失(6 百万円)として特別損失に計上しました。その内訳は、建物 4 百万円及び土地 2 百万円であります。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却可能価額により測定しており、不動産鑑定士による評価額を基礎としております。</p> <p>6</p> <p>7</p>	場所	用途	種類	兵庫県淡路市 他 1 件	遊休資産	建物、土地	<p>1 関係会社に係わる注記 区分掲記されたもの以外で各項目に含まれている関係会社に対するものは次の通りであります。</p> <p style="text-align: right;">受取配当金 134百万円</p> <p>2 一般管理費に含まれる研究開発費は 7 百万円であります。</p> <p>3 固定資産売却益は工具、器具及び備品の売却によるものであります。</p> <p>4 固定資産処分損の内訳は、建物及び土地35百万円、工具、器具及び備品 1 百万円、その他 1 百万円であります。</p> <p>5 減損損失 当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">場所</th> <th style="text-align: center;">用途</th> <th style="text-align: center;">種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">静岡県 伊豆の国市</td> <td style="text-align: center;">遊休資産</td> <td style="text-align: center;">土地</td> </tr> </tbody> </table> <p>当社は、事業用資産は全体で 1 つの資産グループとし、遊休資産は物件ごとにグルーピングしております。一部の遊休資産について、資産価値が帳簿価額に対して著しく下落している為、回収可能価額まで帳簿価額を減額し、当該減少額を減損損失(0 百万円)として特別損失に計上しました。その内訳は、土地 0 百万円であります。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却可能価額により測定しており、路線価による評価額を基礎としております。</p> <p>6 違約損失金 防衛省の調査に基づき平成21年12月17日に通知された過大請求に係る違約金の請求額と、請求時における違約損失引当金との差額であります。差額が発生した主な理由は、同省との見解の相違がある中、調査範囲が拡大し当社が把握し得なかった取引について過大請求の事実が明らかになったことなどによるものであります。</p> <p>7 特別損失の早期退職関連費用の内訳は次の通りであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">割増退職金</td> <td style="text-align: right;">272百万円</td> </tr> <tr> <td>再就職支援業務委託料</td> <td style="text-align: right;">14</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">286</td> </tr> </table>	場所	用途	種類	静岡県 伊豆の国市	遊休資産	土地	割増退職金	272百万円	再就職支援業務委託料	14	計	286
場所	用途	種類																	
兵庫県淡路市 他 1 件	遊休資産	建物、土地																	
場所	用途	種類																	
静岡県 伊豆の国市	遊休資産	土地																	
割増退職金	272百万円																		
再就職支援業務委託料	14																		
計	286																		

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式	1,109	13	6	1,116
合計	1,109	13	6	1,116

(変動事由の概要)

- (1) 普通株式の自己株式の株式数の増加13千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。
- (2) 普通株式の自己株式の株式数の減少6千株は、単元未満株式の買増し請求によるものであります。

当事業年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式	1,116	10	-	1,127
合計	1,116	10	-	1,127

(変動事由の概要)

普通株式の自己株式の株式数の増加10千株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)																																																																																																																														
<p>1. ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容 (ア) 有形固定資産 事務機器(工具、器具及び備品)他であります。 (イ) 無形固定資産 ソフトウェアであります。 (2) リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th style="text-align: center;">工具、器具及び 備品他</th> <th style="text-align: center;">ソフト ウェア</th> <th style="text-align: center;">計</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">百万円</th> <th style="text-align: center;">百万円</th> <th style="text-align: center;">百万円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取得価額相当額</td> <td style="text-align: right;">19</td> <td style="text-align: right;">3</td> <td style="text-align: right;">22</td> </tr> <tr> <td>減価償却累計額相当額</td> <td style="text-align: right;">11</td> <td style="text-align: right;">1</td> <td style="text-align: right;">12</td> </tr> <tr> <td>期末残高相当額</td> <td style="text-align: right;">8</td> <td style="text-align: right;">1</td> <td style="text-align: right;">9</td> </tr> <tr> <td>未経過リース料期末残高相当額等</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>未経過リース料期末残高相当額</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>1年内</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: right;">3百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: right;">6</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: right;">9</td> </tr> <tr> <td>支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>支払リース料</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: right;">11百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: right;">11百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額の算定方法</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>なお、未経過リース料期末残高が未経過リース料、有形固定資産及び無形固定資産の期末残高の合計額に占める割合が低いため、支払利子込み法によっております。 (減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。</td> <td colspan="3"></td> </tr> </tbody> </table>		工具、器具及び 備品他	ソフト ウェア	計	百万円	百万円	百万円	取得価額相当額	19	3	22	減価償却累計額相当額	11	1	12	期末残高相当額	8	1	9	未経過リース料期末残高相当額等				未経過リース料期末残高相当額				1年内			3百万円	1年超			6	合計			9	支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失				支払リース料			11百万円	減価償却費相当額			11百万円	減価償却費相当額の算定方法				リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。				なお、未経過リース料期末残高が未経過リース料、有形固定資産及び無形固定資産の期末残高の合計額に占める割合が低いため、支払利子込み法によっております。 (減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。				<p>1. ファイナンス・リース取引(借主側) 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容 (ア) 有形固定資産 同左 (イ) 無形固定資産 同左 (2) リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p style="text-align: center;">リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th style="text-align: center;">工具、器具及び 備品他</th> <th style="text-align: center;">ソフト ウェア</th> <th style="text-align: center;">計</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">百万円</th> <th style="text-align: center;">百万円</th> <th style="text-align: center;">百万円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取得価額相当額</td> <td style="text-align: right;">19</td> <td style="text-align: right;">3</td> <td style="text-align: right;">22</td> </tr> <tr> <td>減価償却累計額相当額</td> <td style="text-align: right;">14</td> <td style="text-align: right;">2</td> <td style="text-align: right;">16</td> </tr> <tr> <td>期末残高相当額</td> <td style="text-align: right;">5</td> <td style="text-align: right;">1</td> <td style="text-align: right;">6</td> </tr> <tr> <td>未経過リース料期末残高相当額等</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>未経過リース料期末残高相当額</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>1年内</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: right;">2百万円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: right;">6</td> </tr> <tr> <td>支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>支払リース料</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: right;">3百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td colspan="2"></td> <td style="text-align: right;">3百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額の算定方法</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>同左</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>(減損損失について) 同左</td> <td colspan="3"></td> </tr> </tbody> </table>		工具、器具及び 備品他	ソフト ウェア	計	百万円	百万円	百万円	取得価額相当額	19	3	22	減価償却累計額相当額	14	2	16	期末残高相当額	5	1	6	未経過リース料期末残高相当額等				未経過リース料期末残高相当額				1年内			2百万円	1年超			3	合計			6	支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失				支払リース料			3百万円	減価償却費相当額			3百万円	減価償却費相当額の算定方法				同左				(減損損失について) 同左			
		工具、器具及び 備品他	ソフト ウェア	計																																																																																																																											
	百万円	百万円	百万円																																																																																																																												
取得価額相当額	19	3	22																																																																																																																												
減価償却累計額相当額	11	1	12																																																																																																																												
期末残高相当額	8	1	9																																																																																																																												
未経過リース料期末残高相当額等																																																																																																																															
未経過リース料期末残高相当額																																																																																																																															
1年内			3百万円																																																																																																																												
1年超			6																																																																																																																												
合計			9																																																																																																																												
支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失																																																																																																																															
支払リース料			11百万円																																																																																																																												
減価償却費相当額			11百万円																																																																																																																												
減価償却費相当額の算定方法																																																																																																																															
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。																																																																																																																															
なお、未経過リース料期末残高が未経過リース料、有形固定資産及び無形固定資産の期末残高の合計額に占める割合が低いため、支払利子込み法によっております。 (減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。																																																																																																																															
	工具、器具及び 備品他	ソフト ウェア	計																																																																																																																												
	百万円	百万円	百万円																																																																																																																												
取得価額相当額	19	3	22																																																																																																																												
減価償却累計額相当額	14	2	16																																																																																																																												
期末残高相当額	5	1	6																																																																																																																												
未経過リース料期末残高相当額等																																																																																																																															
未経過リース料期末残高相当額																																																																																																																															
1年内			2百万円																																																																																																																												
1年超			3																																																																																																																												
合計			6																																																																																																																												
支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失																																																																																																																															
支払リース料			3百万円																																																																																																																												
減価償却費相当額			3百万円																																																																																																																												
減価償却費相当額の算定方法																																																																																																																															
同左																																																																																																																															
(減損損失について) 同左																																																																																																																															

(有価証券関係)

前事業年度(平成21年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

当事業年度(平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式648百万円、関連会社株式54百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成21年3月31日)	当事業年度 (平成22年3月31日)
1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因の内 訳	1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因の内 訳
流動資産	流動資産
繰延税金資産	繰延税金資産
賞与引当金 108百万円	賞与引当金 57百万円
たな卸資産 44	たな卸資産 47
違約損失引当金 511	その他 19
違約損失未払金 294	小計 124
その他 29	固定資産
小計 989	繰延税金資産
固定資産	繰越欠損金 1,924
繰延税金資産	退職給付引当金 311
ゴルフ会員権 30	投資有価証券 225
退職給付引当金 380	長期未払金 28
減損損失 62	貸倒引当金 26
長期未払金 76	その他 20
繰越欠損金 421	小計 2,537
投資有価証券 110	評価性引当額 2,662
貸倒引当金 27	繰延税金資産計 -
その他 8	流動負債
小計 1,118	繰延税金負債
評価性引当額 2,107	未収計上受取配当金 17
繰延税金資産計 -	建物圧縮積立金 1
流動負債	その他 1
繰延税金負債	小計 20
建物圧縮記帳積立金 1	固定負債
未収計上受取配当金 20	繰延税金負債
小計 21	その他有価証券評価差額金 333
固定負債	建物圧縮積立金 18
繰延税金負債	小計 352
建物圧縮記帳積立金 19	繰延税金負債計 372
小計 19	繰延税金負債純額 372
繰延税金負債計 41	
繰延税金負債純額 41	
2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳	2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳
財務諸表等規則第8条の12第1項第2号の規定に基づく注記については、税引前当期純損失のため記載を省略しております。	同左

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)	当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)
1株当たり純資産額 411.84円	1株当たり純資産額 386.72円
1株当たり当期純損失金額() 110.69円	1株当たり当期純損失金額() 48.42円
「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、 1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式がないため 記載しておりません。	「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、 1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式がないため 記載しておりません。
1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎	1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎
損益計算書上の当期純損失() 2,965百万円	損益計算書上の当期純損失() 1,296百万円
普通株式に係る当期純損失() 2,965百万円	普通株式に係る当期純損失() 1,296百万円
普通株主に帰属しない金額の主な内訳 該当事項はありません。	普通株主に帰属しない金額の主な内訳 該当事項はありません。
普通株式の期中平均株式数 26,788千株	普通株式の期中平均株式数 26,777千株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価 証券	その他有 価証券	I I Stanley Co., Inc	6,034	561
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	878,760	430
		藤倉化成(株)	584,000	294
		(株)ニレコ	469,590	289
		スタンレー電気(株)	115,500	209
		(株)東芝	432,000	208
		(株)山武	91,600	200
		東レ(株)	335,400	183
		トヨタ自動車(株)	39,144	146
		住友化学(株)	290,000	132
		新日本製鐵(株)	290,000	106
		太平電業(株)	121,108	103
		綜通(株)	100,000	100
		東京電力(株)	40,000	99
		エルゴテック(株)	104	98
		日本ハム(株)	80,471	95
		J F E ホールディングス(株)	25,000	94
		三菱電機(株)	100,000	85
		九州電力(株)	40,000	81
		日本電設工業(株)	110,000	80
		(株)クラレ	62,000	77
		東芝機械(株)	178,940	71
		中部電力(株)	30,000	70
		東亜合成(株)	153,000	60
		東洋プラスチック精工(株)	120,000	60
		東北電力(株)	30,000	59
		伊藤ハム(株)	166,000	58
		(株)クボタ	60,000	51
		その他(105銘柄)	2,920,209	1,353
			小計	7,868,860
	計	7,868,860	5,464	

【債券】

種類及び銘柄		券面総額(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価 証券	その他有 価証券	マルチコーラブル・日経平均連動型・ユーロ円債	200
		その他(1銘柄)	24
		小計	224
計		224	53

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価 証券	その他有 価証券	ダイワ・グローバル債券ファンド	180,773,819
		ダイワ・ブラジル株式オープン - リオの風 -	98,449,422
		グローバル・ソブリン・オープン	152,067,424
		日本好配当株オープン	98,114,093
		新光日本インカム株式ファンド	100,000,000
		NIFベンチャーキャピタルファンド2005H - 1	1
		小計	
計			506

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	856	31	259	628	403	17	224
構築物	33	-	-	33	27	0	5
機械及び装置	44	-	-	44	40	1	4
車両運搬具	6	-	6	0	0	0	0
工具、器具及び 備品	461	97	33	526	400	62	126
土地	196	-	44 (0)	151	-	-	151
リース資産	20	-	-	20	7	4	12
有形固定資産計	1,619	129	344 (0)	1,404	879	86	524
無形固定資産							
のれん	-	15	-	15	1	1	13
特許権	13	0	2	11	8	1	3
借地権	71	-	-	71	-	-	71
商標権	0	-	0	-	-	-	-
ソフトウェア	468	223	276	415	152	49	263
電話加入権	9	-	-	9	-	-	9
リース資産	1	-	-	1	0	0	0
その他	4	-	-	4	3	0	1
無形固定資産計	568	238	278	528	166	52	362
長期前払費用	71	51	24	97	27	20	70
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

2 ソフトウェアの減少のうち主なものは、社内業務用ソフトウェアであります。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	90	11	6	17	77
賞与引当金	267	140	267	-	140
違約損失引当金	1,375	-	1,375	-	-

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

流動資産

(イ)現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	0
預金	
当座預金	2,123
普通預金	29
別段預金	25
定期預金	43
小計	2,222
合計	2,223

(ロ)受取手形

主な相手先別内訳

相手先	金額(百万円)	相手先	金額(百万円)
株式会社萬世商店	109	株式会社親和	42
株式会社エム・エス・エン ジニアリング	73	その他	351
オーエヌ工業株式会社	60		
東邦化成株式会社	51	計	688

期日別内訳

期日	22年4月	22年5月	22年6月	22年7月	22年8月	22年9月	合計
金額(百万円)	112	152	205	166	48	3	688

(ハ)売掛金

主な相手先別内訳

相手先別	金額(百万円)	相手先別	金額(百万円)
東レ株式会社	1,013	九州電力株式会社	526
株式会社神戸製鋼所	964	その他	6,444
新日本製鐵株式会社	963		
JFEスチール株式会社	591	計	10,503

滞留及び付帯状況

前期繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
A	B	C	D	C A+B	A+D 2 B 365日
14,089	45,718	49,304	10,503	82.4	98.2

(注) 上記金額には消費税等が含まれております。

(二)商品及び製品

品目別	金額(百万円)	品目別	金額(百万円)
電機・エネルギー関連	88	一般産業関連	1,259
電子・航空関連	190	計	1,538

流動負債

(イ)支払手形

主な相手先別内訳

相手先別	金額(百万円)	相手先別	金額(百万円)
藤倉化成株式会社	1,318	日本ウェーブロック株式会社	46
ABB日本ベレー株式会社	299	その他	167
石川島建材工業株式会社	80		
フジケミ近畿株式会社	62	計	1,975

期日別内訳

期日	22年4月	22年5月	22年6月	22年7月	22年8月	22年9月	合計
金額(百万円)	584	543	449	395	1	-	1,975

(ロ)買掛金

主な相手先別内訳

相手先別	金額(百万円)	相手先別	金額(百万円)
東芝三菱電機産業システム株式会社	1,921	石川島建材工業株式会社	330
ABB日本ベレー株式会社	876	その他	3,770
株式会社IHI	452		
藤倉化成株式会社	344	計	7,694

(ハ)短期借入金

相手先別内訳

相手先別	金額(百万円)
株式会社三菱東京UFJ銀行	908
株式会社みずほ銀行	405
中央三井信託銀行株式会社	280
計	1,593

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日 9月30日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
取次所 買取・買増手数料	無料
公告掲載方法	電子公告の方法により、当社ホームページ(http://www.kbk.co.jp)に掲載して行う。ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告による公告をすることが出来ない場合は、東京都において発行される日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の売渡請求をする権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度（第89期）（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）平成21年6月24日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度（第89期）（自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日）平成21年6月24日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

（第90期第1四半期）（自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日）平成21年8月13日関東財務局長に提出

（第90期第2四半期）（自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日）平成21年11月13日関東財務局長に提出

（第90期第3四半期）（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）平成22年2月12日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年 6月24日

極東貿易株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員 公認会計士 荒井 卓一
業務執行社員

指定社員 公認会計士 亀谷 憲明
業務執行社員

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている極東貿易株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、下記事項を除き我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

記

注記事項（連結貸借対照表関係）に記載されているとおり、防衛省への過大請求事案に対しての返金に備えるため、第三者調査委員会の調査による算定額に基づき違約損失引当金1,375百万円を計上しているが、防衛省の調査は未だ完了していないため、防衛省に対しての返金額は一部確定していない。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、上記事項の連結財務諸表に与える影響を除き、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、極東貿易株式会社及び連結子会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、極東貿易株式会社の平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、極東貿易株式会社が平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- () 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年 6月23日

極東貿易株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 牧野 隆一

指定社員
業務執行社員 公認会計士 亀谷 憲明

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている極東貿易株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、極東貿易株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、極東貿易株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者であり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、極東貿易株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

内部統制報告書の付記事項に記載されているとおり、会社は、事業年度の末日後、新しい基幹システムを導入した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

() 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成21年 6月24日

極東貿易株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 荒井 卓一

指定社員
業務執行社員 公認会計士 亀谷 憲明

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている極東貿易株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第89期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、下記事項を除き我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

記

注記事項（貸借対照表関係）に記載されているとおり、防衛省への過大請求事案に対しての返金に備えるため、第三者調査委員会の調査による算定額に基づき違約損失引当金1,375百万円を計上しているが、防衛省の調査は未だ完了していないため、防衛省に対しての返金額は一部確定していない。

当監査法人は、上記の財務諸表が、上記事項の財務諸表に与える影響を除き、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、極東貿易株式会社の平成21年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成22年 6月23日

極東貿易株式会社

取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 牧野 隆一

指定社員
業務執行社員 公認会計士 亀谷 憲明

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている極東貿易株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第90期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、極東貿易株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- () 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。